

創立100周年事業

同窓会記念館収蔵品目録

愛知県立第八中學校
愛知県刈谷中學校
愛知県立刈谷高等学校
同窓会

同窓会記念館収蔵品目録 目次

収蔵品収納場所／目録索引番号／掲載頁

ショーケースA／0001～0047／3P

主な収蔵品：第50回選抜高校野球大会記念品（昭和53年）
第63回全国高等学校サッカー全国選手権大会記念品（昭和59年）など

ショーケースB／0101～0178／5P

主な収蔵品：創立当初の学校図面
1/300模型（昭和45年 木造平屋校舎時代）
刈中・刈高前期の門標など

縦型ショーケースI／0201～0229／8P

主な収蔵品：サッカー部国体連覇（昭和29・30年）の賞状額と大会優勝盾・カップ・トロフィーなど

縦型ショーケースII／0301～0336／11P

主な収蔵品：各部活動の優勝盾など
定時制課程が受賞した優勝盾など

縦型ショーケースIII／0401～0521／14P

主な収蔵品：刈中・昭和前半期の記念品
各周年行事記念品や映像記録、イトトン校交流記録

縦型ショーケースIV／0601～0700／17P

主な収蔵品：大正8年から昭和45年までの日誌（学校日誌、教練日誌等）
50周年以降の各記念誌など

縦型ショーケースV／1001～1041、1101～1282、1301～1390／22P

主な収蔵品：同窓会員・旧職員の著作の寄贈本、その他の寄贈本

縦型ショーケースVI／0801～0803／36P

主な収蔵品：旧制中学校の校旗
新制高校の校旗とケースなど

金属ロッカー①／2001～2016、2101～2137／37P

主な収蔵品：旧制刈谷中学校1回生から刈谷高校38回生までの卒業記念写真帖・卒業アルバム

金属ロッカー②／2138～2166／41P

主な収蔵品：刈谷高校39回生から現在（～70回生）までの卒業アルバム

ショーケース外の展示品／0901～0931／43P

卒業生の美術作品 各種表彰状 昭和時代の学校備品など

付 創立100周年に向けて記念館に寄贈された資料一覧／01～84／45P

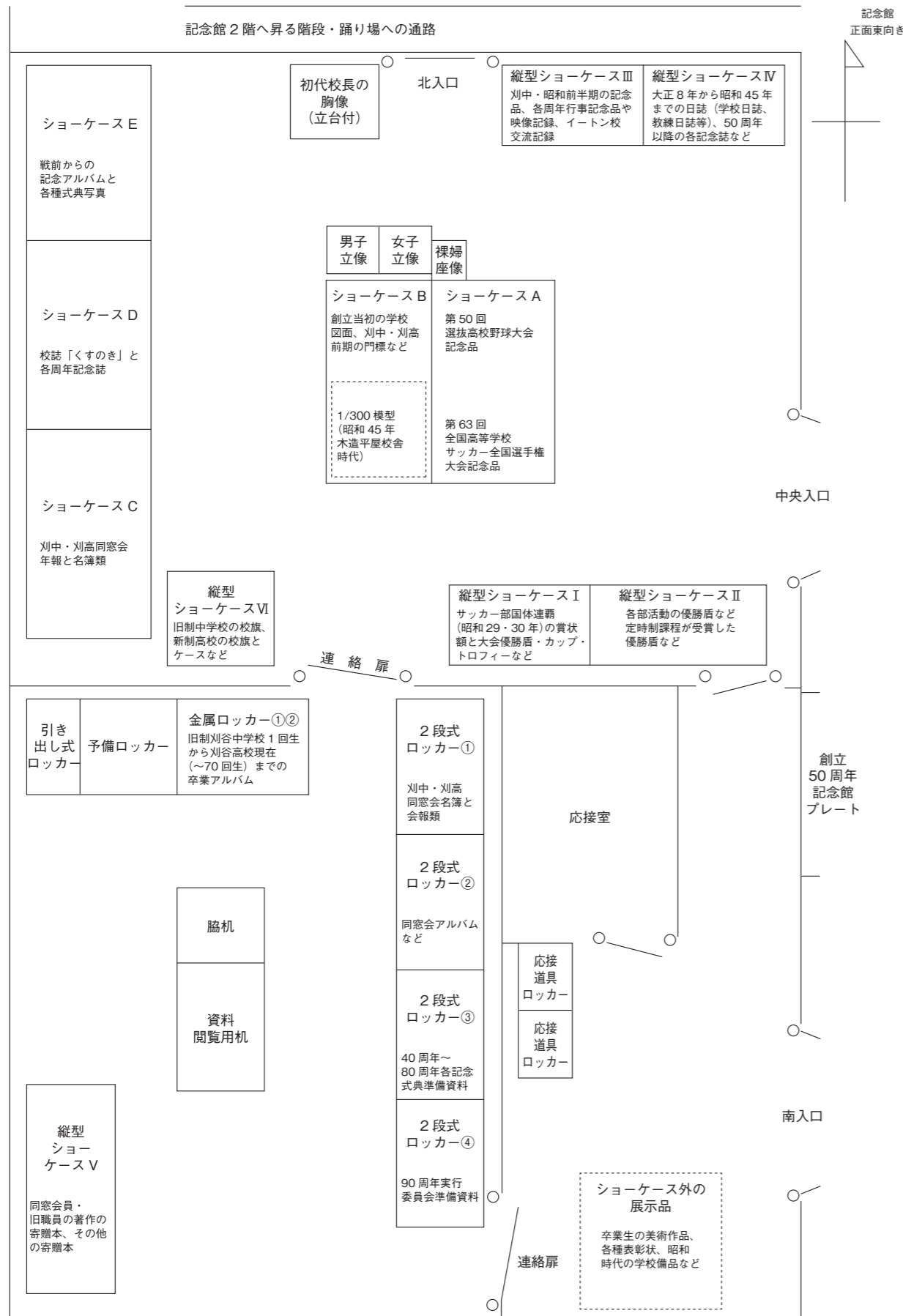
同窓会報の広報などにより新たに寄せられた記念品84点の寄贈者リスト

※目録に付された整理番号について

- 1 一般展示物は0001から四桁でケースごとに番号整理した。また別に会員の著作については1000番台、卒業記念アルバムは2000番台をあててある。100周年にあたり収蔵物840点について整理した。
- 2 上記のように番号割は旧ケースによるものだが、記念館改装後の展示も概ね同様となる予定である。

1階展示室・資料室 全体見取り図

平成 30 年 9 月現在



保管庫名：ショーケース A

主な収蔵品：第 50 回選抜高校野球大会記念品 (昭和 53 年)
第 63 回全国高等学校サッカー選手権大会記念品 (昭和 59 年)
第 10 回国民体育大会サッカー競技優勝時の選手寄せ書き (昭和 30 年)

索引	年	資料名	寄贈者
昭和 53 年 第 50 回選抜高校野球大会			
0001	昭和 53 年	開会式 全景パネル (整列時) 毎日新聞社作成	
0002	昭和 53 年	入場行進パネル 毎日新聞社作成	
0003	昭和 53 年	入場行進パネル 毎日新聞社作成	
0004	昭和 53 年	熱戦パネル 1 回戦 対南陽工業 (山口県) 「春のセンバツ 刈谷 追撃のホームイン」	前田英伸 (刈高 32 回生)
相手投手はのちにプロの広島カープで「炎のストッパー」の異名をとり、早世して伝説の名投手と呼ばれる津田恒美選手。失点を初回の津田選手の 3 ランのみに抑えたが、1 対 3 で惜敗した。			
0005	昭和 53 年	刈高応援団 腕章	
0006	昭和 53 年	女子応援団ベスト (K マーク入り)	
0007	昭和 53 年	女子応援団集合写真 毎日新聞社作成	
0008	昭和 53 年	応援チューリップハット	
0009	昭和 53 年	刈高必勝手ぬぐい	
0010	昭和 53 年	監督・選手寄せ書き記念プレート	
0011	昭和 53 年	出場記念タイピン 毎日新聞社作成	
0012	昭和 53 年	第 50 回選抜高校野球大会記念人文字パネル 毎日新聞社作成	
0013	昭和 53 年	第 50 回選抜高校野球大会ポスター 毎日新聞社作成	
0014 ~ 18	昭和 53 年	甲子園出場記念刈高ペナント (紅・赤・朱・橙・緑色の 5 種)	前田英伸 (刈高 32 回生)
0019	昭和 53 年	「全選手名鑑」サンデー毎日	
0020	昭和 53 年	「高校野球総集編」毎日グラフ	
昭和 54 年 第 61 回全国高校野球選手権大会愛知県大会			
0021	昭和 54 年	「甲子園への道 愛知大会全記録」朝日新聞社刊	
昭和 60 年 第 63 回全国高等学校サッカー選手権大会			
0022	昭和 60 年	開会式 全景パネル (整列時)	
0023	昭和 60 年	入場行進パネル 全校選手名入り	
0024	昭和 60 年	入場行進パネル 刈高選手名入り	
0025	昭和 60 年	絵はがき① タイトル「入場行進風景」	
0026	昭和 60 年	絵はがき② タイトル「刈谷『15 秒』意表の先制」	
0027	昭和 60 年	絵はがき③ タイトル「対前橋商高戦」	
0028	昭和 60 年	刈高必勝手ぬぐい	
0029	昭和 60 年	全国大会出場記念品 出場後援会作成	

索引	年	資料名	寄贈者
昭和27～32年 サッカー部国民体育大会出場選手寄せ書き			
0030	昭和27年	第7回大会（宮城県仙台市） 1枚	
0031	昭和29年	第9回大会（北海道岩見沢市） 全国優勝 1枚	
0032～33	昭和30年	第10回大会（神奈川県藤沢市） 全国優勝 2枚	
0034～35	昭和31年	第11回大会（兵庫県西宮市） 2枚	
0036～37	昭和32年	第12回大会（静岡県藤枝市） 全国3位 2枚	
昭和41年 第21回国民体育大会サッカー競技（大分）			
0038	昭和41年	大会要項・選手名簿	曾田悦正（刈高20回生）
昭和42年 総体全国大会サッカー競技（福井）			
0039	昭和42年	大会要項・選手名簿	曾田悦正（刈高20回生）
0040	昭和43年3月	刈谷市優秀選手表彰式 式次第	曾田悦正（刈高20回生）
総体全国大会のサッカー競技で全国準優勝した刈高サッカー部員が刈谷市の年度顕彰を受けた式典の要項。			
昭和42年 第22回国民体育大会サッカー競技（埼玉）			
0041	昭和42年	大会要項・選手名簿	曾田悦正（刈高20回生）
昭和42年 第45回全国高等学校サッカー選手権大会（西宮球技場）			
0042	昭和42年	大会要項	曾田悦正（刈高20回生）
その他			
0043	昭和52年	『サッカーマガジン』昭和52年7月号 ルポ「刈谷高、異質なサッカーで復活はかる赤ダスキ!!」	
<p>「愛知県で有数の進学校である刈谷高」のサッカー部が「大正十年の創部以来、十七回目の全国選手権出場を果たした」昭和51年の大会出場をうけて企画されたルポルタージュ4ページ。</p> <p>「戦前には刈谷のサッカーが愛知のサッカーを指導し、さらには今は王国となっている藤枝（東高の前身志太中）をもコーチしたという歴史を持ちながら、昭和42年度大会（準優勝）を最後に全国選手権の舞台から姿を消した赤ダスキ」がそれまでとは異質なサッカーを導入して復活を遂げたと紹介している。勉強とスポーツの両立を図りながら甦った刈谷サッカーの秘密をさぐるという特集。（「 」内はルポ原文のママ、下線部は目録作成者補足）</p>			
0044	平成28年	『かりや 市民だより』平成28年1/1号 記事「サッカーのまち 刈谷の歴史に迫る」	刈谷市役所広報室
<p>昭和29年、30年と刈谷高校サッカー部が国体連覇を果たした時のレギュラー選手であった山中俊和氏（取材時77歳）と柳沢征郎氏（同75歳）のインタビュー記事を掲載。「連覇を達成した選手たちを称えようと刈谷駅北口に大勢の市民が集まりました」という説明付きで、昭和30年11月4日に神奈川県藤沢市から凱旋した選手たちの姿も紹介されている。</p>			
平成28年 総体全国大会サッカー競技（広島）			
0045	平成28年	応援キャップ「KARIYA AICHI 2016 Inter-High」	刈谷高校同窓会
0046	平成28年	刈高必勝タオル「2016 質實剛健 KARIYA」	刈谷高校同窓会
0047	平成28年	刈高必勝うちわ「刈谷高校サッカー部 2016 情熱疾走 中国国体 in HIROSHIMA」	刈谷高校同窓会
大会では1回戦を快勝。2回戦で惜敗するも刈高の赤ダスキがピッチを縦横に駆け巡った。			

保管庫名：ショーケースB

主な収蔵品：創立当初の学校図面

1/300模型（昭和45年木造平屋校舎時代）

刈中・刈高前期の門標など

索引	年	資料名
刈谷中学校創立当初の諸図面		
0101	大正9年	大正9年起「縣有財産臺帳附属圖面」愛知県刈谷中學校
<p>本校の原点である愛知県立第八中学校は大正8年4月1日亀城尋常小学校の一部を仮校舎として開校した（1学年120名の5学年で定員600名）。あくは大正9年5月11日、本校舎の一部が新築落成するのを待って現在の地に移るが、本資料は本校の最も初期の姿を示す台帳ならびに図面集である。内容は「大正八年度 第八中学校教室 其他建築調書」に始まり、「大正十一年度 刈谷中学校本館 其他建築調書」までが綴られている。</p> <p>それにしても創立3年後にあたる大正11年5月1日の改称によって「(縣)立」と「第(八)」の呼称が省かれたのにはどのような背景があったのだろうか。後掲の『刈谷高等学校写真五十年史』（縦型ショーケースⅣ所蔵）に記された学校創立当時のエピソードに次のようなものがあり興味深い。</p> <p>「大正6年10月頃の新聞紙上に『愛知縣では今回中学校二校を建設することとなった。従来は敷地寄附争で地元を負担をさせるから不適當な場所に決定する場合があったが、今回は最適の地に設けることとした。伝へるところによれば、半田、西尾なるべし」と。</p> <p>当時（刈谷）町長の職にあった岡本廣太郎氏は町会に於て穴戸俊治氏を委員長に選び不取敢（とりあえず）、運動費の決議を経て、町会挙って、本格的誘致運動に乗り出したのである。</p> <p>これが由因となり全県下に誘致争奪戦が展開したが、結局中等学校五校ほどということで、梟がつき、一宮（第六）、半田（第七）、刈谷（第八）に中學、西尾に蚕絲、新城に農蚕が具体化したのである」（下線部は目録作成者補足）</p>		
0102	昭和2年	愛知県内務部発の「 ^{ごうがい} 庶號外」および図面綴り
<p>内容は昭和2年から昭和17年にわたる県との建物引継書を主とする事務やりとりの記録である。刈谷中学校の施設が一つひとつ補足拡充されていく様が見て取れる。戦前の書類や図面を几帳面に保存したものである。この書類束が収められていた古い大封筒には「古い校舎図面 講堂 図書 県教委 桑田専門員 10/16貸出す」と表書きがあり、かつて研究調査された跡があるが何年頃のことか判然としない。</p>		
0103	大正11年頃	「愛知県谷中學校落成当時の学校平面図」（タテ×ヨコ約1.3mの製図）
<p>図面を保存する封筒（昭和53年製）に「一部増築建物の書き足しがあるが、基幹的形態には殆んど改変はない」と表書きがある。本図に作図年月日の記載がないが、文字に旧漢字が散見されるので戦前に作られたものの可能性がある。さらに原図に加えられた4回にわたる書き足し（それぞれが別時期、別人の手によるものと見られ、校舎増築に伴う建付面積の漸増が示されている。ただしこれらの書き足しにも年月日は無記入）の跡を見ると、実際に大正11年頃の刈谷中学校の姿を示す原図の可能性もある。</p>		
昭和の学校施設の記録		
0104	昭和37年 10月1日	プール新設工事関係図面、書類等綴
<p>綴の表紙には「昭和五十六年五月 プール建設関係記録 刈谷高校プール建設委員会」と墨書されている。公認50mプール設置を申請し竣工に至るまでの青写真や関係書類、竣工式計画などが43頁の冊子に綴じられている。</p>		
0105～7	昭和37年 8月22日	プールならびにクラブハウス竣工式を前にしたプール全景写真 3枚
<p>鈴喜写真館による撮影で、プールサイドの3方向から50mプールの大きさを捉えている。なかでも両端の飛び込み台を構図からはずしてプール中央部をヨコから取った1枚は秀逸で、公認プールの長さがよく伝わってくる。背景の刈谷の町にもまだ高い建物が少なく、周囲の平屋の家々の屋根越しに遠くの景色まで見渡せるため、当時はいっそうこの建造物の大きさが実感されたことだろう。</p>		

索引	年	資料名
0108	昭和40年代	アルバム 昭和の校舎風景
木製机の並ぶ教室、卓球部の活動場所になっていた瓦葺きの旧講堂、その横に建つ完成間もない50周年記念館（昭和43年建設）など、118枚の校舎風景が一冊に収められている。刈高23回生の角谷一夫氏の寄贈になるもので、昭和40年代の木造平屋建て教室から鉄筋コンクリート教室への移行期の姿を捉えた貴重なアルバム。		
0109	昭和40年代	愛知県立刈谷高等学校 1/300精密模型
「昭和45年木造平屋建て校舎取り壊しにあたり記録したものである」との注釈がある。タテ×ヨコ1m余の基盤の周囲には各施設の名称や完成年度などの記録を整理して添付。正確な縮尺で精密に作られているが、文字がファックス原稿用紙の細片にペン書きされていることなどから職員・関係者の手によるものの可能性がある。当時を知る同窓生には、自分たちが学んだ木造平屋建ての学校配置が立体的に甦る。		
門標等		
0110	大正11年	「愛知県立刈谷中學校」門標 石材製
裏書に「大正11年5月～昭和23年3月」とこの門標の架けられた期間が記されている。本校は大正8年4月愛知県立第八中學校として生まれた。以後、大正11年4月までの3年間がいわゆる「八中」の時代であるが、当時の門標は残っていない。		
0111	昭和22年	「愛知県立刈谷高等學校併設中學校」門標 木製
併設中学校は昭和22年4月1日～昭和24年3月31日の2年間刈谷高校と共にあった。「刈高への進学者を除く卒業生数は約三百人である」と裏書されている。		
0112	昭和24年	「愛知県立刈谷高等學校」正門門標 木製
昭和37年2月下旬撤去との裏書がある。		
0113	昭和37年	「愛知県立刈谷高等學校」正門門標 石材製
昭和59年2月24日撤去との裏書がある。		
戦前の奉安殿遺物		
0114	大正9年	御真影奉安殿の御紋章（菊の紋章） 青銅製 大 直径約16cm 厚さ約2cmの鑄造製
0115	大正9年	御真影奉安殿の御紋章（菊の紋章） 青銅製 小 直径約9cmの銘板形状
戦前の学校に置かれた奉安殿（天皇陛下の写真が安置され、遙拝するための社）に飾られた菊をかたどった紋章。		
0116	大正9年	奉安殿の扉の鍵
長さ約10～15cmの鉄鍵5本が金輪で束ねられている。		
徽章等		
0117	大正8年頃	愛知県立第八中学校の徽章 真鍮製 ※制帽正面につける。
0118	大正8年頃	愛知県立第八中学校の徽章 耳章 真鍮製 ※制帽の革紐留めとして左右につける。
0119	大正8年頃	愛知県立第八中学校の徽章 洋服ボタン 真鍮製 ※制服でなく洋服とある。まだ和服が主流であった当時の世情をうかがわせる。
0120	大正8年頃	愛知県立第八中学校徽章の金型 ※上記徽章を打ち付け成形するための金床。
0121～45	大正8年頃	愛知県立第八中学校当時の他校の徽章群25種 ※徽章制定にあたり県外からも参考資料を集めた。
0146～74	昭和22年頃	刈谷高等学校のかつてのバッジ4種と他校の徽章群25種
上記徽章関係の資料はいずれも刈中・刈高旧職員（昭和18～32年）杉浦正巳先生（刈中12回生）が研究書『校章と自然』（昭和52年愛知教育センター刊）を編集する際に収集した資料とみられる。その趣旨の記述が同書にある（同書は記念館所蔵）。		

索引	年	資料名
0175～77	年不明	優勝メダル（3個）
直径約3cmの青銅製のメダルで「優勝」の2文字が浮き彫りされている。どのような大会で授与されたものか由来の説明はない。		
0178	平成28年	『福利あいち』（平成28年1月号）巻頭記事 表題「これまで100年 未来に向かって」
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室の執筆による記事。平成30年に創立100周年を迎える刈谷・半田・一宮・愛知商業高校のうち、「開校当初そのままの正門が唯一残る」刈谷高等学校を取りあげ紹介したもの。開校当初と現在の生徒登校風景を100年変わらぬ門柱に焦点を当てた写真で紹介している。（「 」内は原文のママ）		

保管庫名：縦型ショーケースⅠ

主な収藏品：サッカー部国体連覇（昭和29年・30年）の賞状額と大会優勝盾・カップ・トロフィーなど

索引	年	資料名
サッカー全国大会優勝の賞状		
0201	昭和29年	第9回国民体育大会サッカー競技「種目 蹴球競技 高等学校 男子 第壹位 愛知県刈谷高等学校 昭和二十九年八月二十六日」
0202	昭和30年	第10回国民体育大会サッカー競技 「蹴球 高校 第一位 愛知県 刈谷高等学校 昭和三十年十一月三日」
2年連続国体制覇の偉業の証しである。		
サッカー全国大会優勝時の歓迎風景		
0203	昭和30年	国体連覇を果たし凱旋した選手たちのスナップ写真Ⅰ（写し）
決勝戦の翌日、昭和30年11月4日に神奈川県藤沢市から戻った選手たちは、当時の国鉄刈谷駅北口で出迎えられた。横一列に整列して出迎えに応える選手たちの緊張した表情を捉えている。また監督や主将に花束を渡すため盛装した童女たちの姿や、主催の朝日新聞の小旗を握りしめて選手をじっと見つめる多くの子どもたちの姿もある。優勝が決まった後の慌ただしいなかで、町を挙げての歓迎ぶりが伝わってくる。		
0204	昭和30年	選手たちを出迎えようと刈谷駅に集まった生徒や町の人々のスナップ写真Ⅱ（写し）
林立するのぼり旗が写っているが、その一本に「国体サッカー聯續（連続）優勝」の文字が読み取れるので、日付のないこれら2枚のスナップが昭和30年優勝時のものだと判別できる。凱旋する選手たちを待ち構える刈高生や市民吹奏団の姿を正面に置きながら、やや俯瞰で後ろに広がる群衆を捉えているが、画面左には大きな拡声器を載せた自動車が写り込んでおり、人出の整理に広報車が必要になるほど多くの人が集まった状況がうかがえる。		
サッカー全国大会表彰盾等		
0205	昭和30年	第33回全国高等学校サッカー選手権大会 準優勝記念 東海代表 刈谷高等学校
盾の裏面にはこの大会での刈高の戦績が記されており、 「昭和30年1月2日 第1回戦 本校 3－0 関西高校（東中国代表） 3日 第2回戦 本校 2－1 秋田商高（奥羽代表） 4日 第3回戦 本校 6－1 松山商高（北四国代表） 6日 準決勝 本校 3－0 熊本工高（南九州代表） 7日 決勝 本校 2－5 浦和高校（中関東代表）」 という全国屈指の強豪校との激闘と監督・コーチ、選手14人の氏名が金文字で記されている。刈高はこの準優勝の10か月後、11月3日に第10回国民体育大会サッカー競技の決勝を制して（上記の賞状）見事に雪辱し、秋季国体2連覇を果たすことになる。		
0206	昭和37年	第40回全国高等学校サッカー選手権大会 ア第40回記念盾 「刈谷高等学校 12回出場－1962－ 日本蹴球協会 全国高等学校体育連盟 毎日新聞社」
大正時代に始まった同大会への多数回出場校としてその栄誉を称えられ、本校が表彰された時の記念盾。「ア」とはかつて盛んだったア式＝アソシエーション式蹴球（後掲の昭和3年浜松工高主催全国中等学校蹴球大会の優勝記念盾にもこの呼称が使われている）という様式の名称である。		
0207	昭和37年	第40回全国高等学校サッカー選手権大会 40回大会記念表彰状
上記記念盾とともに授与された表彰状で、その文面には「貴校是全国高等学校サッカー選手権大会に過去十二回選ばれて出場大会史に輝かしい戦績を残され斯界発展に尽くされた功績顕著なものがあります ここに第四十回大会を記念しその栄誉をたたえ表彰します 昭和三十七年一月一日」とある。この文言中の下線部は手書きで出場回数を記入する仕様になっているが、「十二」という二桁の文字がきわめて窮屈に収まっているのが見てとれる。他の表彰校の多くが1桁の出場回数だったために起きた字面ではないかと記入者の苦心の跡がうかがえる。（下線部は目録作成者補足）		

索引	年	資料名
0208	昭和42年	総体全国大会 サッカー競技 準優勝盾 全国高等学校体育連盟 日本蹴球協会
0209	昭和42年	総体全国大会 サッカー競技 次勝盾 福井県芦原町議会議長 三国町議会議長
0210	昭和42年	総体全国大会 祝サッカー準優勝 刈谷市蹴球連盟（福井）
総体全国大会（福井）準優勝の栄誉を称える上記3種の盾。しかし昭和42年のこの大会を境に昭和51年度の全国高等学校サッカー選手権まで、10年近く刈谷の赤ダスキは全国大会の舞台から姿を消すことになる（この間の苦闘が索引番号0043『サッカーマガジン』1977.7月号ルポ「刈谷高、異質なサッカーで復活はかる赤ダスキ!!」に詳述されている）。		
その他のサッカー表彰盾等		
0211	昭和24年	優勝カップ（高さ約36cm）
カップ左手に「昭和廿十三（23）年度優勝」「昭和廿十四（24）年度優勝」とかろうじて読める2本の顕彰帯が結ばれている。右手にも4本の帯が付いているが退色していて文字の有無も判別できない。またカップの土台の木製円台にはかつて金属プレートが巻かれていた跡があるが、失われていて詳細は不明である。		
0212	昭和30年	優勝カップ（高さ約26cm）
「第十五回 昭和参拾（30）年度 春季 刈谷高校」の顕彰帯がある。帯は第1回大会優勝（昭和22年度）の「愛知工業株式会社チーム」から全部で10本付いており、内訳は愛知工業（株）4回、刈谷工機（株）1回、刈高クラブ4回で、これまで実業団や社会人チームが優勝してきた大会だとわかる。秋季国体2連覇を果たすことになる刈高は、そのただ中の「春」の大会で高校単独チームとして初めて大会を制したことになる。		
0213	昭和31年	中部日本新聞社賞 昭和31年度 第3回大会蹴球競技 優勝盾 永久保持顕彰帯付き
タテ約60cm、ヨコ42cmの大きな盾型である。昭和29年～31年の間、第1回大会から3年連続で県大会優勝を果たした栄誉を称えて贈られた盾で「三連勝永久保持」の顕彰帯が誇らしく結ばれている。昭和29年、30年と国民体育大会サッカー競技優勝した刈高サッカー黄金期を示す証しの一つである。		
0214	年不明	優勝カップ （高さ約30cm）
表の刻印は「愛知県 高等学校蹴球選手権大会 優勝 主催 愛知県教育委員会 愛知県高等学校体育連盟 愛知蹴球協会」。裏面に「寄贈 参議院議員 竹中七郎」の刻印があるので、「私」の寄贈品ということであろうか。年度等は不詳である。		
0215	昭和34年	市長表彰盾
「表彰 体育優良団体 昭和三十四年五月十七日 贈 刈谷市長 竹中七郎」の刻印がある。竹中氏は上記カップの寄贈をはじめ、刈谷高校を熱心に後援してくれる存在であった。		
0216	年不明	「知事賞」刻印の記念盾
愛知県知事から贈呈された大型の盾であるが顕彰帯などなく年月日は不詳。裏面には「愛知県」と旧字体の刻印がある。		
0217	年不明	優勝カップ（高さ約30cm）
表の刻印は「愛知県西三河高等学校蹴球大會 男子之部 優勝」。こちらも顕彰帯なく贈呈の年月日など不詳。		
0218	昭和40年	優勝カップ（高さ約36cm）
カップに「三浦賞 愛知県高校サッカーリーグ戦 優勝」の刻印があるほか「贈 三浦 豊」のプレートが土台に巻かれている。同氏は昭和16年刈谷中学校に赴任した保健体育教師で刈中1回生でもある。終戦復員後、母校に戻りサッカー部を指導。昭和29・30年の全国優勝時の監督であった。索引番号0611の中日新聞パネル「母校永遠なり 名物先生健在なり」（昭和54年新聞掲載当時は74歳）でも紹介された。		
0219	昭和41年	優勝カップ（高さ約28cm）
カップに「市立名古屋商業学校創立五十周年記念 祝賀 中等學校蹴球大會 寄贈 商友倶楽部」と刻印されている。昭和初期から愛知のサッカーの中心であった名古屋高等商業学校の50周年記念大会での優勝で、商友倶楽部とは同商業学校サッカー部OBの創立した親睦団体である。さかのぼること40年前の昭和元年、前身の名高商創立10周年を記念した全国中等学校蹴球大会でも、本校の前身刈谷中学校が優勝の栄冠をつかんでいた（次項の「旧制中学校時代の サッカー優勝杯等」を参照）。		

索引	年	資料名
0220	昭和45年	サッカー記念トロフィー（高さ約40cm）
プレートに「贈 1970.4 関西学院高等部」とあるが由来は不明。		
0221	昭和48年	第51回全国高等学校サッカー選手権大会 愛知ブロック大会 準優勝盾 愛知県蹴球協会 中京テレビ放送
0222	昭和49年	第52回全国高等学校サッカー選手権大会 愛知ブロック大会 準優勝盾 愛知県蹴球協会 中京テレビ放送
2年連続の県大会準優勝である。この2年後の昭和51年、刈高サッカー部は9年ぶりの全国大会出場を果たす。「昭和42年度大会を最後に全国選手権の舞台から姿を消した刈谷の赤ダスキが復活」（『サッカーマガジン』1977.7月号記事 索引番号0043）する兆しが見えるようである。		
0223	昭和60年	第63回全国高等学校サッカー選手権大会 地区大会 優勝記念ペナント 日本サッカー協会
旧制中学校時代のサッカー優勝杯等		
0224	昭和元年	名高商創立10周年記念 名高商主催全国中學校蹴球大会（大正15年） 優勝杯
高さ約28cmのカップ。「名高商」とは前掲の大正6年創立の名古屋高等商業学校。本校より2年早く創立された同校は、愛知県の蹴球の草分け的存在であった。刈谷中学校は名高商の初の周年記念大会から優勝をさらった。		
0225	昭和3年	優勝記念盾 同一のもの2個（タテ約16cm×ヨコ約12cm）
「第三回全国中等学校 ア式 蹴球大会 優勝 主催 名古屋高等商業学校 後援 名古屋新聞社」と刻印されたやや小型の盾。盾の中央にブロンズのメダル（直径約6cm）が埋め込まれている。メダルのデザインは勝利の女神と「HONOR（栄誉）」の英文字。同様の盾が2つあるところから、記念盾として優勝メンバーおのおのに授与されたものの可能性がある。ア式とは前述のようにアソシエーション式蹴球という当時盛んだったフォーメーション形態。昭和37年の全国高等学校サッカー選手権大会40回記念大会で授与された「刈谷高等学校12回出場」を称える盾にも「ア」式の刻印がある。		
0226	年不明	優勝記念盾（タテ約40cm×ヨコ約30cm）
「名高商主催中等学校蹴球大会 優 寄贈 名古屋新聞社」の刻印がある縦長の大きな盾である。顕彰帯などが残っておらず詳細は不明である。		
0227	昭和8年	優勝記念トロフィー
高さ約25cmの杯型トロフィーである。「第一回 中等学校蹴球大会 優勝 二五九三 主催 名古屋高等商業学校 蹴球部」の刻印がある。 時は満州建国翌年の昭和8年。年号はこの時代を反映した皇紀表記（神武天皇を開基として想定された戦前の歴史表記）である。（下線部は目録作成者補足）		
0228	年不明	優勝トロフィー
高さ約20cmの杯型トロフィーである。「中部日本中學校蹴球大会 優勝 贈 美津濃」の刻印がある。やや小振りながら上記トロフィーと似た形状を持つ。「美津濃」とは運動用品のミズノであろうか。年代等は不明。		
0229	年不明	優勝杯
「改築落成記念蹴球大会優勝 愛知縣明倫中學校同窓会」とあるが年月日は不明。		
閑話休題。このショーケースには以上のほかに、トロフィーの頂部についていたと思われる「両翼を広げたイヌワシ(?)」の像（翼幅約22cm、銀色の立派な飾りで、同種のものとの対比から元は相当に大きなトロフィーだったと推測される）やトロフィーを据える台座だけが残っているもの（3点）などがあるがいずれも由来は不明である。 このケースの調査を通じて「50年、100年さらにその先まで…歴史が伝わるか否かは成り行きに依らず、残す意図と工夫にあるのでは」と退色して読めなくなった顕彰帯や銘板を失ったカップ類を前に感じるものがある。		

保管庫名：縦型ショーケースⅡ

主な収蔵品：各部活動の優勝盾など

定時制課程が受賞した優勝盾など

索引	年	資料名	大きさ
文化部活動の表彰盾等			
0301	昭和37年	表彰盾「昭和37年度 NHK全国学校音楽コンクール〈合唱〉愛知県コンクール高等学校の部 優秀 第1位 日本放送協会」	タテ約16cm×ヨコ約24cm
0302	昭和38年	表彰盾「賞 優秀 第1位 昭和38年度全国唱歌ラジオコンクール 愛知県コンクール高等学校の部 日本放送協会」	タテ約16cm×ヨコ約24cm
0303	昭和48年	表彰盾「第5回作文募集 高校の部 学校賞 愛知県立刈谷高等学校殿 昭和48年2月10日 財団法人音楽鑑賞教育振興会」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0304	昭和50年	表彰盾「第18回 愛知県学生科学賞 最優秀賞 愛知県教育委員会」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0305	昭和50年	表彰盾「第18回 日本学生科学賞 三等賞 愛知県立刈谷高等学校 1年生物クラブ 塚田臣玄 他4名 1975 読売新聞社 全国科学教育振興委員会」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
運動部活動の優勝盾等			
0306	年不明	優勝盾「第67回 中日旗争奪全三河高校野球大会 優勝 中日新聞社」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
0307	昭和56年	優勝盾「第22回 刈谷市長杯総合体育大会 女子ハンドボール 優勝 愛知県立刈谷高等学校 刈谷市体育協会」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0308	年不明	優勝盾「優勝 第6回 刈谷市長杯総合体育大会 蹴球」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0309	年不明	優勝盾「優勝 第8回 刈谷市長杯総合体育大会 蹴球」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0310	年不明	優勝盾「第8回 西村杯争奪 冬季バスケットボールリーグ 1位 中日新聞社」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
0311	年不明	優勝盾「西村杯争奪冬季 バスケットボールリーグ戦 優勝 男子3部 中日新聞社」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
0312	年不明	優勝盾「二部優勝 刈谷高バスケットボール部 第35回 刈谷市民駅伝競走大会 刈谷市教育委員会」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
その他の表彰盾等			
0313	昭和59年	表彰盾「昭和59年度 善行表彰 刈谷市教育委員会 刈谷市児童生徒愛護会」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
0314	年不明	表彰盾「学校体育優良校 愛知県学校体育研究連合会」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
0315	昭和39年	記念盾「朝・日親善サッカー愛知大会 贈 在日本朝鮮人愛知県体育協会 1964.5.24」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
0316	年不明	記念盾「愛知県 第5回 日朝親善蹴球試合 贈 刈谷市」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0317	昭和30年	優勝盾「刈谷市在全官公署 親睦排球大会 優勝 刈谷高等学校 贈 中部日本新聞社」	タテ約18cm×ヨコ約26cm

索引	年	資料名	大きさ
0318	年不明	記念盾「全三河 ソフトボール 安城市」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0319	昭和39年	東京オリンピック聖火トーチ（ステンレス製）	直径約3cm×長さ約48cm
「佐野正君（3年在学）はランナーとして参加した」という銘文のみ残存とされてきたが、今回100周年記念の整理作業のなかで、トーチ本体が見つかりケースに戻された。			
夜間定時制課程各部活動の栄誉			
0320	昭和34年	永久保持盾「体育大会 陸上 自第一回 至第六回（昭和二十九年～三十四年）連続優勝 永久保持 オール三河高等学校夜間課程」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
0321	昭和37年	永久保持杯「自昭和三十五年度 至昭和三十七年度 三連勝（男子） 全三河総合体育大会 陸上競技 永久保持」	高さ約32cm
陸上部は上記の盾に刻まれていた昭和29年からの6連勝の後、さらに3年連続優勝したことになる。夜間定時制という厳しい条件の中ですばらしい努力と工夫があったのであろう。			
0322	昭和37年	表彰盾「1962 テニス 3年連続優勝（女子） 全三河高等学校夜間定時制総合体育大会」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0323	昭和38年	優勝盾「全三河夜間定時制総合体育大会 優勝 柔道の部」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0324	昭和44年	優勝盾「全三河夜間定時制総合体育大会 優勝 バレーボールの部」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0325	昭和44年	優勝盾「第20回 愛知県高等学校定時制総合体育大会 女子バレーボール 優勝 1969 中日新聞」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0326	昭和44年	優勝盾「第20回 愛知県高等学校定時制総合体育大会 男子軟式庭球 優勝 1969 中日新聞」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
昼間定時制課程 東浦分校各部活動の栄誉			
0327	年不明	優勝盾「第9回 愛知県高等学校分校 昼間定時制総合体育大会 優勝 ソフトボール 中部日本新聞社」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0328	年不明	優勝盾「第9回 愛知県高等学校分校 昼間定時制総合体育大会 優勝 女子バレーボール 中部日本新聞社」	タテ約18cm×ヨコ約26cm
0329	昭和41年	優勝盾「庭球大会 女子個人 優勝 平林やえ 戸田友枝 東浦町体育協会」	タテ約16cm×ヨコ約24cm
定時制課程の総合優勝盾等			
0330	昭和35年	優勝盾「第11回 愛知県高等学校夜間定時制総合体育大会 女子総合 優勝 主催 愛知県教育委員会 愛知県高等学校体育連盟」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
0331	昭和36年	優勝盾「第12回 愛知県高等学校夜間定時制総合体育大会 女子総合 優勝 主催 愛知県教育委員会 愛知県高等学校体育連盟」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
0332	昭和37年	優勝盾「第13回 愛知県高等学校夜間定時制総合体育大会 総合女子優勝 贈 愛知県知事 桑原幹根」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
0333	昭和41年	準優勝盾「第17回 愛知県高等学校夜間定時制総合体育大会 県立刈谷高校 男子総合 準優勝 中部日本新聞社」	タテ約20cm×ヨコ約30cm

索引	年	資料名	大きさ
0334	昭和44年	準優勝盾「第20回 愛知県高等学校夜間定時制総合体育大会 女子総合 刈谷高等学校準優勝 中日新聞」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
0335	昭和44年	優勝盾「全三河公立学校夜間連盟体育大会 女子総合 優勝 贈 中部日本新聞社」	タテ約20cm×ヨコ約30cm
0336	昭和33年	校内優勝盾	タテ約40cm×ヨコ約30cm
<p>「校内体育大会 優勝 愛知県立刈谷高等学校定時夜間課程」の刻印があり、この年に校内大会優勝の栄誉を授与されたのは「昭和三十三年度 三年一組」であったことが顕彰帯からわかるが、その盾の大きさ、重さに驚く。本ショーケースの中でも最大級の盾である。</p> <p>定時制陸上競技部は前述のように昭和29年から全三河大会9連覇を果たすのだが、その躍進はこの盾のスケールと無縁ではあるまいと思えてくる。いずれにせよ校内で授与するには場違いに見えるほどの立派な盾を「敢えて」作らせた夜間定時制の教師陣の気概がうかがえる。</p> <p>校内体育大会の熱は陸上競技部にとどまらず、上記のように県大会の総合優勝という形で結実していく。</p>			

保管庫名：縦型ショーケースⅢ

主な収蔵品：刈中・昭和前半期の記念品
各周年行事記念品や映像記録
イトン校交流記録

索引	年	資料名
刈中・昭和前半の記念品		
0401	大正9年	愛知県立第八中學校 絵はがき 新校舎および羽生校長
0402	大正9年	愛知県立第八中學校 絵はがき 仮校舎
0403～4	大正9年	愛知県立第八中學校 絵はがき 御真影奉安殿 2枚
大正8年に亀城小学校の一部を仮校舎として開校した第八中學校は、大正9年5月に半ば完成した新校舎へ移転する。絵はがきには年月が記されていないが、おそらくそれを記念して作られた絵はがきと推測される。		
0405	大正14年	愛知県刈谷中學校 絵はがき 全景
0406	大正14年	愛知県刈谷中學校 絵はがき 本館および講堂
愛知県立第八中學校は創立から3年後の大正11年5月1日より「刈谷中學校」と改称する。(つまり「第八中学入学生」はいても「第八中学卒業生」は存在しないことになる)。校舎の建設は開校後も続き、すべて竣工したのは大正13年3月のことであった。新築完成式が大正14年2月12日に挙行されているので、この絵はがきもその時の記念品と思われる。		
0407	昭和4年	刈中十周年記念 祝賀会の祝杯
0408	昭和18年	刈谷中學校来訪者 揮毫帳
太平洋戦争前の昭和5年から昭和12年間の刈谷中學校来訪者の手になる揮毫集で、立派な装幀が施され化粧箱に入れている。侯爵や海軍将官など10人の書や署名が毛筆でしたためられている。揮毫帳の体裁にしたのは戦争中の昭和18年であることが、これまた「流るる水茎の跡」で記されている。		
0409	昭和10年代	刈谷中學校 指定鞆「男子 ネズ色S」のタグ付 布製手提げ鞆
0410	昭和10年代	男子学生服上下 「東レ テトロン学生服S」 色はグレー 箱入り
これらの鞆、学生服は刈中18回(昭和16年卒)永田友市氏寄贈になる。旧制中学時代、制服ボタンをまだ「洋服ボタン」と呼んでいた時代のなごりの比較的明るいグレーの詰襟である。		
戦後の記念品		
0411	昭和27年4月	愛知県立刈谷高等学校 理科教室落成記念絵はがき
0412	昭和33年 10月5日	創立40周年記念 湯呑み
0413	昭和34年4日	愛知県立刈谷高等学校 体育館兼講堂落成記念絵はがき
0414	昭和37年 8月10日	プール竣工記念 絵はがき
0415	昭和37年 8月10日	プール竣工記念 灰皿 陶器製
プールの形状を模して完成祝いに配られた品で、当時公式競技を行える50m公認プールを持つことが高校としていかに破格の措置であったかということ、またその飲みがうかがえる。		
0416～18	昭和48年	定時制閉校記念 「遊鯉」 陶芸 3体 日本彫塑会会員 加藤知彦作
創立周年記念品		
0419	昭和43年	創立50周年記念 飾り皿 小林貢(刈高3回生 日展入選者)デザイン

索引	年	資料名
0420	昭和43年	50周年記念館竣工記念 文鎮
0421	昭和43年	50周年記念館竣工記念 湯呑み
0422	昭和53年	創立60周年記念 七宝焼皿 5枚組木箱入り 太田博明作 だいきち七宝工房
0423	昭和63年	創立70周年記念 「質実剛健」扇子(箱入)
初代羽生隆校長が本校たつての望みに応じて筆を執った唯一の揮毫(昭和31年6月仙台のお宅にて)を元に作成された扇面。		
0424	大正9年	愛知県立第八中學校校章入り酒盃
八中開校記念の原物で裏面に「夜寒」窯(廃窯)の刻印。旧恩師の杉浦正巳先生寄贈である。		
0425	昭和63年	創立70周年記念 八中校章入り酒盃
70周年記念の復元品で裏面に「葵」窯の刻印がある。来歴に「刈高の前身は大正8年4月開校の愛知県立第八中學校。校章は、羽生隆先生が初代校長の内命を千葉縣立成東中學校で受けた時、同校の図画担当の外山佐伝教頭と相談し定めた。刈谷の歴史から亀城(刈谷城の愛称)を取り上げ、八中の文字をカメの形にデザインしたものである。開校式の時、校章図入りの夜寒焼(大正時代まで名古屋市熱田区内にあった窯)の酒盃を記念品とした。今回(70周年記念)瀬戸市の葵窯で、その酒盃を復元してもらった」とある。		
0426～27	平成10年 10月10日	創立80周年記念 記念Tシャツ 2着
0428～29	平成10年	創立80周年記念 刈高ウォーキング完歩賞手ぬぐい 2本
0430	平成10年	創立80周年記念 サッカー・野球招待試合記念タオル
0431	平成10年	創立80周年記念 記念絵はがきセット 「校章の変遷」 図解1枚を含む7枚組
0432	平成10年	創立80周年記念 「くすの葉しおり」 生物部作成
0433	平成20年	「創立90周年記念 デザイン置き時計」 アクリル製
0434	平成20年	「創立90周年記念 文鎮」 アクリル製
記念色紙		
0435	昭和57年 10月25日	河原 淳(編集者 エッセイスト) 「太陽のように」
0436	昭和57年 11月1日	鈴木康平(刈高4回 熊本大学教授) 「誠意」
0437	昭和58年 11月2日	外山滋比古(刈中18回 英文学者 エッセイスト) 「玫瑰(まいかい=ハマナス)や 沖には今も未来あり」
0438	昭和61年 6月13日	日高義樹(刈高6回 NHKアメリカ総局長) 「母校での講演を期して」
0439	平成元年	創立記念 外山滋比古(刈中18回) 「冬来たりなば春遠からじ」
0440	平成7年 5月21日	蹴球部同窓会寄せ書き
0441	平成9年 11月6日	西永頌(刈高10回 東京大学教授) 「Durch Leiden Freude 苦悩を通して歓喜へ～ベートーベン」
0442	平成9年 11月6日	西永頌(刈高10回 東京大学教授) 「涙をもって種まく者は喜びの声をもって刈り取る～詩編より」
0443	平成10年 7月29日	刈中18回生寄せ書き 「母校80周年に向け」 外山滋比古氏をはじめ有志

索引	年	資料名
0444	平成10年 11月7日	木村尚三郎 80周年記念式典にて 「振り返れば未来」
0445～46	平成20年 11月1日	90周年記念式典来賓寄せ書き 2枚
0447	平成20年	氏名来歴不詳 1枚 題字「今日好晴」
イートン校交流		
0448	昭和63年頃	イートン校出身の著名人紹介パネル
イートン校はイギリスの歴代首相など政財界の有名人を多数輩出している私立の伝統校である。日本でも有名な近現代の歴史的人物が肖像写真で紹介されている。		
0449	昭和63年 8月4日	新聞記事「刈谷高新たな飛躍へ」拡大パネル 副題「お手本にして来年創立70周年～英イートン校交流が本決まり」
中日新聞の記事を拡大しパネル化したもの。大きく紙面を割いた特集面であることがわかる。		
0450～59	昭和63年8月 17日～28日	創立70周年記念行事「イートン校来日交流風景」大判写真アルバム①～⑩
0460～82	平成4年	イートン校校長夫妻を本校に招待した時のスライド23枚
0483	平成4年	歓迎式典にてイートン校校長のスピーチを収めたカセットテープ
0484	平成4年	イートン校校長夫妻本校招待時の決算書
0485	平成4年	イートン校校長から本校校長へ宛ててのクリスマスカード
0486	平成5年	イートン校校長を招待したレセプションの参加者から本校校長への礼状
毛筆の書簡。文面からかなりの高齢と推察されるが、本校の発展に感激する心情が熱く陳べられている。		
アルバム・パネル		
0487	平成10年	80周年史用スナップ写真アルバム(6冊組)
0488	昭和40年代	航空写真(市街の中の学校風景)
0489	年不明	正門横の「楠の大樹」パネル(「樹医の手当を受け樹勢回復したのを記念して」とある)
周年行事等の映像記録		
0490	昭和53年	60周年記念式典8ミリ(20分)フィルム 1巻
0491～96	昭和53年	8ミリフィルム 6巻
0497～99	年不明	オープンリール録音テープ 3巻
0500～08	年不明	ソニー8ミリカセットビデオ 9巻
0509～14	年不明	VHSビデオ 6巻
0515	年不明	ベータビデオ 1巻
0516～21	平成15年～ 20年	(第56～61回)刈高祭DVD 6巻
これらの多くは現在、視聴する機器の確保が困難になりつつある。その時その時の最新の映像ツールが50年のうちに次々現れては消えていった。結局、紙媒体の写真が最も永続性が高いではないかという皮肉になる。長期間の記録の保存法には一考を要する。		

保管庫名：縦型ショーケースⅣ

主な収蔵品：大正8年から昭和45年までの日誌(学校日誌、教練日誌等)
50周年以降の各記念誌など

索引	年	資料名
校印と校章など		
0601	大正8年	愛知県立第八中學校 校印
0602	大正8年	愛知県立第八中學校 図書印
0603	大正8年	愛知県立第八中學校 同窓会印
0604	大正11年	愛知県刈谷中學校 校印
0605	大正11年	愛知県刈谷中學校 寄宿舎印
0606	昭和10年代	愛知県刈谷中學校 校章
0607	昭和20年代	愛知県立刈谷高等学校 校章
これらの校章は男子制帽正面につける六角形縦長のバッジでタテ約4cm。中央の一字は「中」から「高」に変わったが、背景のデザインは同一のものである。現在に至るまで本校のバッジ類はこのデザインを引き継いでいる。ちなみにショーケースBに収蔵されている愛知県立第八中学校時代の校章やボタンはこれらと異なり亀をモチーフにした独特のデザイン(刈谷藩の亀城からの意匠)であった。		
0608	昭和10年代	刈谷中学校男子学生服のボタン(昭和63年12月 前田洋服店寄贈)
0609	昭和20年代	刈谷高等学校男子学生服のボタン(昭和63年12月 前田洋服店寄贈)
パネル・写真額等		
0610	昭和43年	旧校舎全景の航空写真パネル
「昭和43年9月10日撮影」と裏書に明記されている。昭和45年に木造平屋建て校舎の取り壊し工事が始まっているので、その1年半前の撮影ということになる。ショーケースBに収蔵されている取り壊し前の本校の姿を残した1/300全景模型ともども、創立以来の姿を残したいという本校の明確な意図と情熱も見てとれる。		
0611	昭和54年	中日新聞広告パネル 昭和54年7月22日付 『母校永遠なり名物先生健在なり ^⑩ 元刈谷中学校教諭(保健体育) 三浦豊先生(刈中1回生)の巻』
刈谷中学校と刈谷高校で長く指導した三浦豊先生は昭和29年と30年秋季国体サッカー2連覇の監督である。		
0612	昭和63年	創立70周年記念扇子「質実剛健 羽生隆書」
初代校長に70周年のためと揮毫を懇請。揮毫嫌いの羽生元校長が筆を執った生涯唯一とされる揮毫を写して記念扇子が製作された。		
0613	昭和63年	校章の変遷染め手ぬぐい
70周年を機に刈谷中学校同窓会と亀の子会が共同で作成した。		
0614	昭和63年	校章の変遷染め用図案
上記手ぬぐい製作のために描かれた手書き図案。ファックス原稿用紙に各校章が手書きで描かれているほか以下のように本校の変遷も整理されている。 大正8年4月～大正11年4月 愛知県立第八中學校 大正11年5月～昭和23年3月 愛知県刈谷中學校 昭和23年6月～9月 愛知県立刈谷南高等学校ならびに刈谷南高等学校併設中学校と称する 昭和23年4月～ 愛知県立刈谷高等学校		
0615	大正9年	羽生隆初代校長 写真額
0616	大正13年	高橋英治第4代校長 写真額

索引	年	資料名
0617	昭和43年	刈中校歌・応援歌レコード
0618	昭和43年	刈中校歌・応援歌ソノシート
0619	昭和43年	刈中・刈高校歌・応援歌オープンテープ
0620	昭和63年	刈中・刈高校歌カセットテープ
50周年以降の各記念誌		
0621	昭和43年	『写真50年史』
<p>ハードカバー 132頁の白黒写真集。昭和43年11月2日の記念式典に合わせて発行。巻末に編集者代表名、発行者名、製作・印刷所名と住所を掲載している。</p> <p>大正および戦前の本校の記録として貴重な写真が多いと思われるが、キャプションのついてない写真も少なくなく、記念誌の編集当時すでに事情不明になっているものが多かったのだろうと推察される。</p>		
0622	昭和53年	『60年史』
<p>ハードカバー 120頁。スナップに編集者による軽妙なキャプションを付している。刈中出身の旧職員への取材や生徒会の旧刊行物からの抜粋が随所にあり、各頁が読み物としても成立している。すでに物故者となった方をはじめ寄せられたナマの言葉には感銘深いものが多く、埋もれさせるのは惜しい。100周年の記念誌でも取り上げるなどして残すべき内容があるように思う。</p>		
0623	昭和63年	『70年史』
<p>箱入ハードカバー 122頁。70年を年代別に区分け、『60年史』との差別化を図る。</p> <p>箱入豪華本の作りでバブル時代を反映しているといえるだろうか。この時の周年行事はイートン校との交流開始など派手なイベントが多く、マスコミへの露出も多いようだ。記念誌も何とか特色を出そうとしているが、「前へ前へ」の勢を感じるアトラクティブな他の記念行事の展開に比べ、回想という企画そのものが地味に映るのはいたしかたない。</p>		
0624	平成10年	『80年史』
<p>ソフトカバー 140頁。各年代にキャッチコピーをうってカラーグラフ化するなどビジュアル化を図っている。これまた時勢を反映してか、前回の豪華本と異なり装丁が一気に質素になった。内容は柔らかくなりカラー参考書なみのわかりやすさや利便性を意識した感がある。</p> <p>例として 1 基礎期（大正8～昭和3年） 2 発展期（昭和4～13年） 3 変動期（昭和14～22年） 4 転換期（昭和23～33年） 5 充実期（昭和34～47年） 6 展開期（昭和48～63年） 7 飛躍期（平成元～10年）</p> <p>という時代区分は改めて今日的な眼で見直すことで、利用価値のある整理法かもしれない。</p>		
0625	平成20年	90周年記念誌『刈谷高校10年のあゆみ』
<p>ソフトカバー 66頁。タイトルにあるように直近の10年に限っての記録となっている。100周年を控えてか、これまでの周年史とは異質のコンセプトで作られているようだ。</p>		
大正8年から昭和45年までの各日誌		
0626	大正8年	宿直日誌 愛知県立第八中學校
0627	大正8年	在学證書
0628	大正9年	日誌 愛知県立第八中學校
—	大正10年	※日誌欠落
0629	大正11年	日誌
0630	大正11年	教務日誌 愛知県立第八中學校
0631	大正12年	日誌 愛知県刈谷中學校

索引	年	資料名
0632	大正12年	教務日誌 愛知県刈谷中學校
九月一日関東大震災当日の記載あり。		
0633	大正13年	日誌 愛知県刈谷中學校
第1回卒業式にて同窓会発足の記載あり。		
0634	大正13年	教務日誌 愛知県刈谷中學校
0635	大正14年	日誌 愛知県刈谷中學校
0636	大正15年	日誌 愛知県刈谷中學校
0637	昭和2年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0638	昭和3年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0639	昭和4年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0640	昭和5年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0641	昭和6年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0642	昭和7年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0643	昭和8年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0644	昭和9年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0645	昭和10年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0646	昭和11年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0647	昭和12年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0648	昭和13年	学校日誌その1 愛知県刈谷中學校
0649	昭和13年	学校日誌その2 愛知県刈谷中學校
0650	昭和13年	出張命令簿 愛知県刈谷中學校
0651	昭和13年	舎務日誌 愛知県刈谷中學校
0652	昭和14年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0653	昭和15年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0654	昭和16年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0655	昭和16年	特設警防団組織 愛知県刈谷中學校
<p>太平洋戦争開戦の年にあたる。新聞報道が当時の世論形成に少なからぬ影響を与えていたと読み取れる記述が随所にある。「特設警防団組織」とは自警団と消防団を合わせた組織とされ、ここでは生徒が主力である。</p>		
0656	昭和17年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0657	昭和18年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
0658	昭和19年	学校日誌 愛知県刈谷中學校
—	昭和20年	※学校日誌欠落
0659	昭和21年	会議録 愛知県刈谷中學校
0660	昭和21年	校務諸記録 愛知県刈谷中學校
0661	昭和22年	学校日誌 愛知県刈谷中學校

索引	年	資料名
0662	昭和23年	会議録 1巻 愛知県立刈谷南高等学校ならびに併設刈谷中学校
0663	昭和23年	会議録 2巻 愛知県立刈谷南高等学校ならびに併設刈谷中学校
0664	昭和23年	会議録 3巻 愛知県立刈谷南高等学校ならびに併設刈谷中学校
0665	昭和24年	会議録 愛知県立刈谷高等学校
—	昭和25年	※学校日誌欠落
0666	昭和26年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0667	昭和26年	学校協議会委員会記録 愛知県立刈谷高等学校
0668	昭和26年	人事委員会 愛知県立刈谷高等学校
0669	昭和27年	会議録 愛知県立刈谷高等学校
0670	昭和27年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0671	昭和28年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0672	昭和29年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0673	昭和30年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
—	昭和31年	※学校日誌欠落
0674	昭和32年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0675	昭和33年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0676	昭和34年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0677	昭和35年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0678	昭和35年	文教委員会御視察資料 愛知県立刈谷高等学校
0679	昭和36年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0680	昭和37年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0681	昭和38年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0682	昭和39年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0683	昭和40年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0684	昭和41年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0685	昭和42年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0686	昭和43年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0687	昭和44年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
0688	昭和45年	学校日誌 愛知県立刈谷高等学校
現在記念館に移管、収蔵している学校日誌類は創立50年余の昭和45年まで。		
0689	昭和16～18年	教練科 週番勤務録 第1巻
0690	昭和16～18年	教練科 週番勤務録 第2巻

索引	年	資料名
0691	昭和16～18年	教練科 週番勤務録 第3巻
0692	昭和16～18年	教練科 週番勤務録 第4巻
0693	昭和16～18年	教練日誌 第1巻
0694	昭和16～18年	教練日誌 第2巻
0695	昭和16～18年	教練日誌 第3巻
0696	昭和16～18年	教練日誌 第4巻
太平洋戦争中の昭和17年5月、オーストラリアのシドニー湾に特殊潜航艇で突入、戦死した士官の一人が刈谷中学の先輩であることに感激する刈中生の記載あり。		
0697	昭和16～18年	教練日誌 第5巻
0698	昭和16～18年	教練日誌 第6巻
0699	昭和16～18年	教練日誌 第7巻
0700	昭和16～18年	教練日誌 第8巻

保管庫名：縦型ショーケースV

主な収蔵品：同窓会員・旧職員の著作の寄贈本
その他の寄贈本

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
刈中・刈高旧職員の著作寄贈本(敬称略、在職年代順に掲載)				
1001	昭和61年	『函館英語史研究』	長谷川誠一著 (刈中 昭和13～20年)	ニューカレント インターナショナル刊
1002	昭和45年	『源氏物語女性像』	竹村義一著(刈中 昭和15～16年)	有精堂選書
1003	昭和52年	『土佐日記の地理的研究 土佐国篇』	竹村義一著	笠間書院
1004	昭和53年	『寺田寅彦郷土随筆集』	竹村義一編集	高知新聞社
1005	昭和57年	『土佐の古典文学と風土』	竹村義一著	笠間書院
1006	昭和60年	『土佐弁さんぽ』	竹村義一著	高知新聞社
1007	昭和49年	歌集『私唱 古京花筐』	大島一郎著 (刈中 昭和17年)	竹田印刷※
1008	昭和56年	歌集『古京花筐—京都—』	大島一郎著	晃学出版
1009	昭和57年	歌集『古京花筐(大和)』	大島一郎著	晃学出版
1010	昭和60年	『風花舞ふ 私のの中の浪漫』	大島一郎著	晃学出版
1011	昭和63年	『私の文学論～旅と死の発想による～』	大島一郎著	中部日本教育文化会
1012	平成2年	『資料 日本近現代文学選』	大島一郎著	晃学出版
1013	昭和27年	『遠足の手引』	杉浦正巳共編 (刈中高 昭和18年～32年 刈中 12回生)	編集会※
1014	昭和46年	『佐久島の化石』	杉浦正巳編著	編集会※
1015	昭和50年	『カキツバタ類を教育に生かす』	杉浦正巳著	刈谷高速印刷※
1016	昭和52年	『校章と自然』	杉浦正巳編著	愛知教育センター
1017	昭和54年	『日間賀島の化石』	杉浦正巳共編	編集会※
1018	昭和57年	『刈谷市の貝化石』	杉浦正巳編著	東海化石研究会 ※
1019	昭和57年	『小堤西池のカキツバタ群落』	杉浦正巳共編	刈高あげは会※
1020	昭和61年	『刈谷市の地質と地盤』	杉浦正巳共編	編集会※
1021	平成2年	『刈谷の自然 昔と今』	杉浦正巳著	刈谷高速印刷※
1022	平成4年	『小堤西池のカキツバタ群落報告書I～V』	杉浦正巳編著	刈谷高速印刷※
1023	平成5年	『小堤西池のカキツバタ群落で学ぶ』	杉浦正巳著	刈谷高速印刷※

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
1024	平成10年	『刈谷の自然を学ぶ』	杉浦正巳著	刈谷高速印刷※
1025	平成10年	『自然を守ろう』	杉浦正巳著	刈谷高速印刷※
1026	昭和61年	『教育雑考—折にふれて—』	杉浦一徳著(刈中 昭和20～21年、 刈高 昭和44年生)	第一法規出版
1027	平成10年	『世界覗き見 [中国編]』	深尾謹之介著(刈 中高 昭和21～ 24年)	講談社
1028	平成10年	『世界覗き見 [ヨーロッパ・アメリカ・トルコ編]』	深尾謹之介著	講談社
1029	昭和43年	『新編機械工学講座 材料工学(1)』	安土幸一著(刈高 昭和22～23年)	コロナ社
1030	昭和43年	『新編機械工学講座 材料工学(2)』	安土幸一著	コロナ社
1031	昭和34年	『刈谷藩に関する研究』遺作集	宇野幸男著(刈高 昭和24～31年 在職中に永眠)	粥川印刷所※
1032	平成8年	童話選集『夜長物語』	森三郎著(刈高 昭和26年～29 年)	刈谷市教育委員会・中央図書館 ※
1033	平成8年	童話選集『かさざぎ物語』※図書館にも所蔵	森三郎著	刈谷市教育委員会・中央図書館 ※
1034	昭和60年	書画集『野外の書』	戸田提山(昌尚) 著(刈高 昭和 40年～46年)	戸田提山後援会 ※
1035	平成2年	書画集『がまみゝず』※図書館にも所蔵	戸田提山著	同朋社
1036	平成2年	書画集『自然への讃』※図書館にも所蔵	戸田提山著	何有社
1037	平成19年	書画集『戸田提山 薄墨桜』	戸田提山著	戸田提山顕彰事業 実行委員会※
1038	昭和53年	『文殊まいり』	富田太著(刈高 昭和49～53年)	ブラザー印刷※
1039	平成5年	『乳幼児の発達と集団遊び』※所在不明本	鵜野吾市著(刈高 昭和61～63)	中部日本教育文化 会
1040	平成7年	『ひたぶるの記—昭和の教育—』	鵜野吾市著	中日出版
1041	平成7年	『続ひたぶるの記—平成を生きる—』	鵜野吾市著	山本企画※
刈中1回生(大正13年卒)の著作寄贈本				
1101	昭和52年	詩集『総角』	鈴木長次著	東都工芸印刷※
1102	昭和59年	詩集『続 総角』	鈴木長次著	東都工芸印刷※
1103	昭和57年	『西三河の俳人 中島秋拳』	谷沢靖・永田友市 (刈中18回生)共著	西村書房

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
1104	平成4年	『米寿への歩み』	加藤巽著	朝日新聞編集製作センター※
刈中2回生(大正14年卒)の著作寄贈本				
1105	昭和41年	歌文集『双樹』	都築康二著	刊行記念会※
1106	昭和42年	歌文集『疎林』	都築康二著	刊行記念会※
1107	昭和49年	歌集『ほそ道をゆく』	都築康二・章枝著	都築彰示・龍二※
1108	昭和54年	『春秋二人旅』	都築康二・章枝著	マセキアート※
1109	昭和43年	俳句俳画集『ひさご』	堀尾一斗(博)著	刊行会※
1110	昭和52年	俳句俳画集『酒寿』	堀尾一斗著	マセキアート※
1111	平成3年	『相傘 一斗作品集』	堀尾一斗著	マセキアート※
1112	昭和53年	『安城植物風土記』	畔柳栄一著	安城文化協会
1113	昭和53年	『安城の植物』	畔柳栄一著	安城文化協会
1114	昭和59年	『良寛の歌と植物』	畔柳栄一著	刊行会※
1115	平成6年	『良寛 その四十一像記 考』	畔柳栄一著	安城文化協会
1116	昭和57年	『久修練行』	川口四郎著	中部日本教育文化会
1117	昭和62年	画集『川口四郎作品』	川口四郎著	中部日本教育文化会
1118	昭和62年	『人を学ぶ』	川口四郎著	中部日本教育文化会
刈中準2回生(大正14年卒)の著作寄贈本				
1119	昭和53年	『アイヒ詩集 雨の便り』	板倉鞆音訳	潮流社
刈中3回生(大正15年卒)の著作寄贈本				
1120	昭和59年	『美かげ』	鈴木義一著	加茂御祖神社※
刈中4回生(昭和2年卒)の著作寄贈本				
1121	昭和27年	『ロシア 上 ヘアズ著』	山内俊雄(ペンネーム 内山敏)訳	岩波新書
1122	昭和27年	『ロシア 下 ヘアズ著』	山内俊雄訳	岩波新書
1123	昭和41年	『中国の発見 ボヴォゲール著』	山内俊雄訳	紀伊国屋
1124	昭和42年	『正規の大行進 ガンサー著』	山内俊雄訳	集英社
1125	昭和43年	『現代史の目撃者 ブラウン他著』	山内俊雄訳	読売新聞社
1126	昭和48年	『千枚綴』	兵藤三平著	刊行社※
刈中5回生(昭和3年卒)の著作寄贈本				
1127	昭和53年	『峠に立ちて』	河本春男編	ユーハイム
1128	昭和56年	『人間その気になれば』	河本春男編	玄同社

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
1129	昭和60年	『わが人生論 愛知 上』	河本春男共著	文教図書
1130	昭和53年	『濤』	鈴木日出年	鈴の会
1131	昭和61年	『やさしい仏教の話』	小笠原律著	中日出版
刈中6回生(昭和4年卒)の著作寄贈本				
1132	昭和53年	『トヨタ生産方式』	大野耐一著	ダイヤモンド社
1133	昭和54年	『一期一会 鬼頭正一追想録』	追想録刊行会編	鬼頭正一追想録刊行会※
1134	昭和59年	『夕焼けの詩』	斉藤孝著	出版社※
1135	平成7年	『和顔愛語』	黒田慶整追想録刊行会編	刈高・刈商定時制卒業生※
刈中7回生(昭和5年卒)の著作寄贈本				
1136	昭和44年	『暗黒時代の精神史』	竹内正三著	吉川弘文館
1137	昭和52年	『西洋中世の世界』	竹内正三著	学生社
1138	昭和49年	『自動販売機業入門』	山中康男著	ビジネス社
1139	平成2年	『私の履歴書』	神谷忠一著	自費出版※
刈中8回生(昭和6年卒)の著作寄贈本				
1140	昭和55年	『寺田守先生追想集』	追想録刊行会編	刊行会※
1141	昭和60年	『わが人生論 愛知 上』	原田三郎共著	文教図書
1142	昭和60年	『私の旅』	野村一郎著	自費出版※
1143	昭和63年	『生きるということ』※所在不明本	小野淳信著	北の街社
1144	平成5年	『きみがよ考』	伊藤彰茂(号 緑苔)著	自費出版※
刈中9回生(昭和7年卒)の著作寄贈本				
1145	平成6年	『揭示伝導四十題』	大音龍尾(号 正覚寺)著	自費出版※
刈中10回生(昭和8年卒)の著作寄贈本				
1146	昭和51年	『西三河古寺抄』※図書館にも所蔵	水越正男編著	菩薩会
1147	昭和54年	作品集『安藤幹衛回顧展』	安藤幹衛著	名動画廊
1148	平成2年	『わが人生論 愛知 中』	安藤幹衛・石崎勝久(刈高1回生)共著	文教図書
1149	平成6年	作品集『メキシコの女と風景展』	安藤幹衛著	中部二科会
1150	昭和59年	追想集『井村紹快惜慕帖』	追想録刊行会編	自費出版※
刈中11回生(昭和9年卒)の著作寄贈本				
1151	昭和58年	『畔柳教授業績集』	畔柳武雄退職記念会編	埼玉医大内刊行会※

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
刈中12回生(昭和10年卒)の著作寄贈本 ※杉浦正巳編著の書籍13作は旧職員の索引に掲載				
刈中14回生(昭和12年卒)の著作寄贈本				
1152	昭和53年	作品集『笛吹く旅人』	大野元三著	中日新聞社
1153	昭和58年	『子どもはなぜ絵をかくか』	大野元三著	大日本印刷
1154	昭和58年	『元三語録』	大野元三著	大日本印刷
1155	昭和61年	『岡本 吾コレクション』	岡本 吾著	蒲郡資料館
1156	平成6年	作品集『旅のスケッチブック』	竹内恒正著	自費出版※
刈中15回生(昭和13年卒)の著作寄贈本				
1157	昭和48年	『ガスタービン』	浜島操著	ロナ社
1158	昭和60年	『スターリンの虜囚 上』	浜島操著	鵬和出版
1159	昭和60年	『スターリンの虜囚 中』	浜島操著	鵬和出版
1160	昭和60年	『スターリンの虜囚 下』	浜島操著	鵬和出版
1161	昭和53年	歌集『白雲草』	野場紘太郎著	短歌新聞社
1162	昭和61年	『瓦の芸術 鬼浅の作品集』	古橋高治著	自費出版※
刈中16回生(昭和14年卒)の著作寄贈本				
1163	平成5年	『安城の石造物』	細井茂樹・加藤千秋(刈中20回生)共著	安城市教委
刈中17回生(昭和15年卒)の著作寄贈本				
1164	昭和30年	『守野親男遺稿集』	守野親男遺稿集刊行会	自費出版※
1165	昭和61年	『松本奎堂先生覚之書』	鈴木定雄著	六法出版
1166	平成6年	『島原の乱と三河武士』	鈴木定雄著	六法出版
刈中18回生(昭和16年卒)の著作寄贈本				
1167	昭和36年	『フェスティナレンテ』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	創知社
1168	昭和43年	『修辭的残像』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	みすず書房
1169	昭和47年	『外国語を考える』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	英語教育協議会
1170	昭和48年	『日本語の論理』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	中央公論社
1171	昭和50年	『エディターシップ』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	みすず書房
1172	昭和50年	『日本語の感覚』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	中央公論社
1173	昭和51年	『省略の文学』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	中央公論社
1174	昭和51年	『日常の言葉』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	みずうみ書房
1175	昭和51年	『文学の方法』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	大修館
1176	昭和53年	『ことばの作法』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	ダイヤモンド社
1177	昭和53年	『異本論』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	みすず書房

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
1178	昭和53年	『裏窓の風景』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	英潮社
1179	昭和53年	『かたりべの文化』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	冬樹社
1180	昭和53年	『中年閑居して』	外山滋比古著	日本経済新聞
1181	昭和54年	『日本の文章』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	北斗出版
1182	昭和54年	『男の神話学』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	中央公論社
1183	昭和54年	『フィナーレの発想』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	講談社
1184	昭和54年	『ことばの心』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	ダイヤモンド社
1185	昭和54年	『親は子に何を教えるべきか』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	PHP研究所
1186	昭和54年	『ことばの習俗』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	三省堂
1187	昭和54年	『実のある話』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	北洋社
1188	昭和54年	『ことわざの論理』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	東京書籍
1189	昭和55年	『現代にほんご草紙』	外山滋比古著	PHP研究所
1190	昭和55年	『女のライフワーク』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	大和書房
1191	昭和55年	『ユース オブ ライフ』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	講談社
1192	昭和55年	『家庭教育処方』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	講談社
1193	昭和55年	『ことばの四季』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	毎日新聞社
1194	昭和55年	『メモと日記の方法』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	潮出版
1195	昭和55年	『読み書き話す』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	日本書籍
1196	昭和55年	『小学生を持つ両親へ ルイス著』※図書館にも所蔵	外山滋比古訳	創知社
1197	昭和56年	『読書の方法』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	講談社
1198	昭和56年	『日本語の素顔』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	中央公論社
1199	昭和56年	『ことばと春秋』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	毎日新聞社
1200	昭和57年	『昨日は今日の昔』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	研究社
1201	昭和57年	『大人であることの面白さ』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	PHP研究所
1202	昭和57年	『ことばと散策』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	毎日新聞社
1203	昭和57年	『知的創造のヒント』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	講談社
1204	昭和57年	『美しい日本語～しつけのための七章』※図書館にも所蔵	外山滋比古共著	小学館
1205	昭和58年	『空気の教育』	外山滋比古著	福武書店
1206	昭和58年	『家庭という学校の先生』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	三修社
1207	昭和58年	『日本の修辭学』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	みすず書房
1208	昭和58年	『ことばの力』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	毎日新聞社
1209	昭和58年	『生活の編集』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	創知社

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
1210	昭和58年	『思考の整理学』※図書館にも所蔵	外山滋比古著	筑摩書房
1211	昭和61年	『あ・かっぶ・おぶ・てい』	外山滋比古著	現代書林
1212	昭和62年	『学校で出来ること出来ないこと』	外山滋比古著	読売新聞社
1213	昭和63年	『風の音』	外山滋比古著	廣済堂
1214	昭和63年	『文具百話』	外山滋比古著	芸術新聞社
1215	平成3年	『同窓会の名簿』	外山滋比古著	PHP研究所
1216	平成6年	『ことばと人間関係』	外山滋比古著	チクマ秀版社
1217	昭和53年	『愛知のことば』	永田友市著	中日文化
1218	昭和56年	『愛知の俳句』※図書館にも所蔵	永田友市著	中日文化
—	昭和57年	『西三河の俳人 中島秋拳』※先輩同窓会員との共著	永田友市・谷沢靖 (刈中1回生)共著	西村書房
1219	昭和57年	『高校生のための新文章作法』	永田友市著	右文書院
1220	昭和58年	『気くばりの話しことば』	永田友市著	教育出版センター
1221	昭和60年	『家庭教育のすすめ』	永田友市著	教育出版センター
1222	昭和63年	『芭蕉の表現』	永田友市著	右文書院
1223	昭和63年	『城とさくら』	永田友市著	中日出版
1224	平成4年	『文章表現の教え方』	永田友市著	右文書院
1225	平成6年	『夢中で ~高野鎮男を偲ぶ』	制作委員会編	自費出版※
刈中20回生(昭和18年卒)の著作寄贈本				
1226	昭和32年	『私たちの宇宙』	日下実男著	朝日新聞社
1227	昭和44年	『宇宙に挑む人間』	日下実男著	文藝春秋社
1228	昭和46年	『日本の宇宙衛星』	日下実男著	ダイヤモンド社
1229	昭和47年	『世界は一つ』	日下実男著	大日本図書
1230	昭和50年	『海洋の神秘(プロウヤン著)』	日下実男翻訳	集英社
1231	昭和50年	『新 海洋の秘密』	日下実男著	社会思想社
1232	昭和51年	『大氷河期』	日下実男著	朝日ソノラマ
1233	昭和51年	『惑星と生命(スニーズ著)』	日下実男翻訳	TBSブリタニカ
1234	昭和52年	『新 宇宙の進化』	日下実男著	文藝春秋社
1235	昭和59年	『衆参両院の規則先例の比較』※所在不明本	榊山次男著	全国都道府県議 会議長会事務局 ※
1236	平成2年	歌集『尖塔』	榊山次男著	近代文芸社
1237	昭和62年	『日露戦争従軍の記』	加藤修治編著	野田資料館※

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
1238	昭和63年	『野田村の日露戦争』	加藤修治編著	野田資料館※
1239	平成3年	句集『寧日』	深津司郎著	故郷社
1240	平成3年	『目で見る碧海の100年』※図書館にも所蔵	加藤千秋共著	郷土出版社
—	平成5年	『安城の石造物』※先輩同窓会員との共著	加藤千秋・細井茂 樹(刈中16回生) 共著	安城市教委
1241	平成10年	『宝泉院文書』	加藤千秋編著	安城古文書研※
1242	平成7年	『児童生涯』※図書館にも所蔵	伊藤漱平著	汲古書院
刈中21回生(昭和19年卒)の著作寄贈本				
1243	昭和32年	『近代代数学』	永田雅宣共著	共立出版
1244	昭和32年	『近代幾何学』	永田雅宣共著	共立出版
1245	昭和41年	『代数学と幾何学』	永田雅宣共著	共立出版
1246	昭和42年	『抽象代数への入門』	永田雅宣著	朝倉書店
1247	昭和42年	『可換体論』	永田雅宣著	裳華房
1248	昭和44年	『アーベル群・代数論』	永田雅宣共著	共立出版
1249	昭和45年	『集合論入門』	永田雅宣著	森北出版
1250	昭和47年	『抽象代数幾何学』	永田雅宣共著	共立出版
1251	昭和49年	『可換環論』	永田雅宣著	紀伊国屋
1252	昭和50年	『LOCAL RINGS』	M.NAGATA 著	KRIOGER
1253	昭和52年	『FIELD THEORY』	M.NAGATA 著	DEKKER
1254	平成6年	『虎 寅 とら』	石川兵衛著	奈良医科大内刊 行会※
1255	平成6年	『石川教授業績集』	石川教授退官記念 刊行会編	奈良医科大内刊 行会※
刈中22回生(昭和20年卒)の著作寄贈本				
1256	昭和63年	『有情』	井野昭治著	自費出版※
刈中23回生(昭和20年卒)の著作寄贈本 ※終戦により22回生とともに23回生も昭和20年卒業				
1257	昭和62年	『川柳河豚考』	小野真琴著	大平書店
1258	昭和63年	『むつのはな』	小野真琴著	近代文芸社
1259	平成元年	『俳風妻楊枝私注』	小野真琴著	近代文芸社
1260	平成5年	『川柳江戸の民間療法』	小野真琴著	太平書店
1261	平成9年	『江戸の町医者』	小野真琴著	新潮社
1262	平成27年	『江戸川柳 女の一生』	小野真琴著	文芸社
刈中24回生(昭和21年卒)の著作寄贈本				
1263	昭和52年	『何をどう読ませるか』	平居芳男共執	全国SLA※

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
刈中25回生(昭和22年卒)の著作寄贈本				
1264	昭和42年	『危険なデザイン』	河原淳著	三一書房
1265	昭和42年	『グラフィックデザイナー』	河原淳著	ダヴィット社
1266	昭和43年	『絵の特技を生かそう』	河原淳著	実務教育出版
1267	昭和44年	『こわれたオルゴール』	河原淳著	みはま書房
1268	昭和46年	『新版 イラストレーション』	河原淳著	ダヴィット社
1269	昭和46年	『アイデアレーター』	河原淳著	保育社
1270	昭和48年	『イラスト入門』	河原淳著	保育社
1271	昭和49年	『手作りおもちゃ97』	河原淳著	講談社
1272	昭和50年	『カットの描きかた』	河原淳著	ダヴィット社
1273	昭和52年	『絵の楽しみ』	河原淳著	ダヴィット社
1274	昭和53年	『楽しいイラスト表現』	河原淳著	日本文芸社
1275	昭和53年	『ユーモアイラスト技法』(別冊アトリエ)	河原淳執筆	アトリエ
1276	昭和53年	『新しい年賀状の作り方』(別冊アトリエ)	河原淳執筆	アトリエ
1277	昭和55年	『リサイクル手作り遊び』	河原淳著	第三文明社
1278	昭和56年	『体験的フリーライター案内』	河原淳著	ダヴィット社
1279	昭和59年	『雑学人生のすすめ』	河原淳著	人物往来社
1280	昭和61年	『こども・本・おとな』	清水達郎著	国土社
1281	昭和62年	『親子読書運動』	清水達郎著	国土社
刈中26回生(昭和23年卒)の著作寄贈本				
1282	平成4年	『なんじゃもんじゃの花が咲く』	深津栄一著	自費出版※
刈高1回生(昭和24年卒)の著作寄贈本				
1301	昭和46年	『古代の瓦』(『日本の美術』)	稲垣晋也編	至文堂
—	平成2年	『わが人生論 愛知 中』※先輩同窓会員との共著	石崎勝久・安藤幹衛(刈中10回生)共著	文教図書
刈高2回生(昭和25年卒)の著作寄贈本				
1302	平成5年	『湯ヶ島と文学』	粟屋誠陽(ペンネーム 新郷久)著	伊豆近代文学館
1303	平成5年	『さくらの星座』※朝日新聞等の本書紹介記事の添付あり	粟屋誠陽著	風媒社
1304	平成9年	『思い出の記』	戸田増實著	自費出版※
刈高3回生(昭和26年卒)の著作寄贈本				
1305	昭和62年	『街道を歩く』	加藤淳子(旧姓戸田)著	中日出版

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
1306	平成元年	『スプーンの歌声』	三ツ松悟著	自費出版※
1307	平成2年	歌集『ポプラの笛』	寺西裕美(旧姓青木)著	六法出版
1308	平成26年	『大地への感謝状 ～自然は宝もの 千に一つの無駄もない』	高木利誌著	明窓出版
1309	平成28年	『宇宙から電気を無尽蔵にいただくとおきの方法 ～水晶・鉱石に秘められた無限の力』	高木利誌著	明窓出版
刈高4回生(昭和27年卒)の著作寄贈本				
—	昭和57年	『小堤西池のカキツバタ群落』※先輩同窓会員との共著	浜島繁隆・杉浦正巳(刈中12回生旧職員)共著	刈高あげは会※
1310	平成6年	『ため池の自然学入門』	浜島繁隆著	合同出版
1311	平成25年	『水草の世界—生態と東海地方の分布・変貌の記録』	浜島繁隆著	シンプリブックス
1312	昭和62年	『現代青年心理学』※所在不明本	鈴木康平共著	有斐閣
刈高5回生(昭和28年卒)の著作寄贈本				
1313	平成元年	漢詩集『臥雲詩集』	山本勘弑著	自費出版※
刈高6回生(昭和29年卒)の著作寄贈本				
1314	昭和52年	『写真集 白球の詩』※図書館にも所蔵	鈴木悠司共著	自費出版※
1315	昭和58年	『アメリカの証言』※図書館にも所蔵	日高義樹著	日本放送協会
1316	昭和61年	『日本一流国家論 を嗚う』※図書館にも所蔵	日高義樹著	飛鳥新社
1317	昭和61年	『アメリカの罨』※図書館にも所蔵	日高義樹著	講談社
1318	昭和62年	『兵器なき日米戦争』※図書館にも所蔵	日高義樹著	飛鳥新社
1319	昭和62年	『驚くべき日本観』※図書館にも所蔵	日高義樹著	潮出版
1320	昭和63年	『日本の決断』※図書館にも所蔵	日高義樹著	講談社
1321	昭和63年	『日本は2番でいい』※図書館にも所蔵	日高義樹著	飛鳥新社
1322	昭和62年	『ママ・アイ・ラブ・ユー(サローヤン著)』	内藤誠訳	新潮社
1323	平成元年	『ロック・ワグラム(サローヤン著)』※所在不明本	内藤誠訳	新潮社
1324	平成7年	『日本映画百年の事件簿』	内藤誠著	角川書店
刈高7回生(昭和30年卒)の著作寄贈本				
1325	昭和49年	『瑞浪の地層と化石』	柴田博共著	瑞浪市化石博物館
1326	平成26年	『ロシアの失墜 ～届かなかった一知識人の声』	E・J・ディロン著・成田富夫(岩月富夫)訳	成文社
1327	平成29年	『トルストイ ～新しい肖像』	E・J・ディロン著・成田富夫(岩月富夫)訳	成文社

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
刈高8回生(昭和31年卒)の著作寄贈本				
1328	昭和54年	『えんとその周辺』	梅野きみ子(旧姓山中)著	笠間書院
1329	昭和54年	『撰集抄 校本編』	梅野きみ子共著	笠間書院
1330	昭和60年	『源家長日記』	梅野きみ子共著	笠間書院
1331	昭和62年	『撰集抄 下』	梅野きみ子共編	現代思想社
1332	平成7年	『王朝の美的語彙』	梅野きみ子著	新典社
刈高9回生(昭和32年卒)の著作寄贈本				
1333	平成15年	『稲害虫研究をとおして』	永田徹著	永田先生退官記念会※
刈高10回生(昭和33年卒)の著作寄贈本				
1334	H11年	『ピクトグラムのおはなし』	太田幸夫著	日本規格協会
刈高11回生(昭和34年卒)の著作寄贈本				
1335	平成24年	『禪を正しく、わかりやすく』	中野紀和男著	パレードブックス
1336	平成25年	『続 禪を正しく、わかりやすく』	中野紀和男著	パレードブックス
1337	平成26年	『禪を生活に活かす』	中野紀和男著	パレードブックス
刈高12回生(昭和35年卒)の著作寄贈本				
1338	平成6年	『卑弥呼の王城を求めて』	中村淳悟著	かもがわ出版
1339	平成7年	『邪馬台国の栄光』	中村淳悟著	かもがわ出版
刈高13回生(昭和36年卒)の著作寄贈本				
1340	平成12年	『科学と技術の井戸端会議』	高田重孝共著	文芸社
刈高14回生(昭和37年卒)の著作寄贈本				
1341	昭和42年	『徳富蘆花』	岡本正臣共著	清水書院
1342	平成16年	『共に天を戴かず』	相木鍾三著	日本図書刊行会
1343	平成17年	『洛陽の紙価』	相木鍾三著	文芸社
1344	平成27年	『王朝晦冥なり』 <small>かいめい</small>	相木鍾三著	幻冬社
1345	平成29年	『私史エッセイ 炎女』	トロック祥子著	吉備人出版
刈高15回生(昭和38年卒)の著作寄贈本				
1346	平成3年	『無機錯体・キレート錯体』	野々山松雄共著	丸善
1347	平成5年	『化学便覧 基礎編1』	野々山松雄共執	丸善
1348	平成5年	『化学便覧 基礎編2』	野々山松雄共執	丸善
1349	平成6年	『化学辞典』	野々山松雄共執	化学同人

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
1350	平成13年	『土木技術者のための原価管理』	江坂久義共編	丸善
1351	平成15年	『共に立つ～言葉の学習を論理あるものに』	河合昌和著	GMKワークス
刈高17回生(昭和40年卒)の著作寄贈本				
1352	平成8年	『統計学的発想法』	広江守俊著	近代文藝社
1353	平成23年	『街角の統計学ー楽しい確率論の展開ー』	広江守俊著	岩波ブックセンター
1354	平成27年	『ふるさと大府 心に描いた風景』	広江守俊著	一粒書房
1355	平成28年	『生徒らと歩んだ私の足あと』	三上裕著	カブス出版
刈高18回生(昭和41年卒)の著作寄贈本				
1356	平成13年	『新版 食用天然色素』	中村幹雄著	光琳
刈高19回生(昭和42年卒)の著作寄贈本				
1357	平成15年	『コホモロジーのこころ』	加藤五郎著	岩波書店
刈高20回生(昭和43年卒)の著作寄贈本				
1358	昭和63年	『株式で1億円を達成する方法』	井上雅文著	ダイヤモンド社
1359	平成元年	『コラッ!む(ロビン・ギル著)』	鈴木豊雄訳	白水社
1360	平成7年	『世紀末奇芸談(リッキー・ジェイ著)』	鈴木豊雄訳	パピルス
1361	平成9年	『テスラ 発明王エジソンを超えた偉才(マーガレット・チェニー著)』	鈴木豊雄訳	工作舎
1362	平成12年	『重カゼロの世界へー宇宙空間での飛行士たちの生活ー(ピーター・ボンド著)』	鈴木豊雄訳	ニュートンプレス
1363	平成16年	『驚異のクローン豚が人類を救う!? (ジョニー・ブライアン、ジョン・クリア共著)』	鈴木豊雄訳	清流出版
1364	平成17年	『なぜ貝の化石が山頂に? 地球に歴史を与えた男ニコラウス・ステノ(アラン・カトラ著)』	鈴木豊雄訳	清流出版
1365	平成17年	『ラッキー・ワンダー・ボーイ(D・B・ワイス著)』	鈴木豊雄訳	早川書房
1366	平成18年	『人はなぜ走るのか(ベルンド・ハインリッチ著)』	鈴木豊雄訳	清流出版
1367	平成20年	『ビジュアル博物館 騎士と城(フィリップ・ディクソン著)』	鈴木豊雄訳	昭文社
1368	平成20年	『ビジュアル博物館 エジプト(ジョイス・ティルズリー著)』	鈴木豊雄訳	昭文社
1369	平成21年	『ビジュアル博物館 飛行機(フォン・ハーディスティヒ著)』	鈴木豊雄訳	昭文社
1370	平成5年	『読解理論』	鈴木正司著	自費出版※
—	平成6年	『ため池の自然学入門』※先輩同窓会員との共著	鈴木達夫・浜島繁隆(刈高4回生)共著	合同出版

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
刈高21回生(昭和44年卒)の著作寄贈本				
1371	昭和61年	『同時代歌人論』	鈴木竹志著	ながらみ書房
1372	平成9年	『歌を詠む悦び』	鈴木竹志著	本阿弥書店
1373	平成23年	『孤独なる歌人たち』	鈴木竹志著	六花書林
1374	平成27年	『歌集 游渉』	鈴木竹志著	六花書林
1375	平成17年	『著作権法講義』	中根孝司著	自費出版※
1376	平成25年	『転倒予防 一転ばぬ先の杖と知恵』	武藤芳照著	岩波書店
1377	平成27年	『武道のスポーツ医学』※図書館にも所蔵	武藤芳照著	ベースボール・マガジン社
刈高22回生(昭和45年卒)の著作寄贈本				
1378	平成9年	『経営分析の基礎テキスト』	禰宜田政信著	日本能率協会マネジメントセンター
1379	平成11年	『人事考課・賃金テーブル・標準ツール集』	禰宜田政信著	日本能率協会マネジメントセンター
刈高23回生(昭和46年卒)の著作寄贈本				
1380	昭和60年	『ネパールの学校から』	野村晴久著	自費出版※
刈高24回生(昭和47年卒)の著作寄贈本				
1381	平成9年	『浮世絵』	川原廣美監修	長野浮世絵研究会※
刈高25回生(昭和48年卒)の著作寄贈本				
1382	平成11年	『風呂で読む与謝野晶子』	松平盟子著	世界思想社
1383	平成28年	『トルコ旅行記』	杉浦雅子(入谷雅子)著	一粒書房
1384	平成28年	『トルコ旅行記』(中国語版)	杉浦雅子(入谷雅子)著	一粒書房
刈高27回生(昭和50年卒)の著作寄贈本				
1385	平成29年	『人工知能学大辞典 人工知能学会編』	間瀬健二編著	共立出版
刈高29回生(昭和52年卒)の著作寄贈本				
1386	平成10年	『プロ家庭教師の難関中学受験解法テクニック 算数』	村松英夫著	西田書店
刈高53回生(平成13年卒)の著作寄贈本				
1387	平成23年	『人間形成における「如来蔵思想」の教育的道徳的意義』	岩瀬真寿美著	国書刊行会
刈高5回生(昭和31年卒)の著作寄贈本				
—	昭和52年	『白球の詩』※所在不明本	鈴木孝・鈴木悠司(刈高6回生)共著	自費出版※

索引	初版出版年	書籍名(在任期間)	発行者	発行 ※は非売本
刈高7回生(昭和33年卒)の著作寄贈本				
1388	昭和49年	『陽と土と ー比島観音建立報告ー』	加藤知彦共編	刊行会※
その他の寄贈本				
1389	平成18年	『続々 重原の歴史』	尾島哲也著(歴史研究者)	シルバー印刷※
1390	平成9年	『刈高藩主の墨跡』	刈谷頌和会(旧刈谷士族会)編	刊行会※

保管庫名：縦型ショーケースVI

主な収蔵品：旧制中学校の校旗
新制高校の校旗とケースなど

索引	年	資料名
刈谷中学校・刈谷高校の校旗		
0801	大正11年	「愛知縣刈谷中學校」校旗
金モール縁取りの紫紺地に金糸で「刈中」と縫い取られている。添付の史料がなく確定できないが、意匠が大正8年「愛知縣立第八中學校」時の「亀」のモチーフでなく、現在と同じ「剣」であるところから大正11年5月「愛知縣刈谷中學校」改称時に作られた校旗と判断した。本校の校旗100年の歴史の中で2番目の意匠ということになる。長く展示ケースに掲げられていたためか退色と布地の傷みが進んでいるが、大切な歴史の証人である。掲揚棒と三脚付き。旗ケースの所在は不明。		
0802	昭和23年	「愛知縣立刈谷高等學校」校旗
タテ約50cm×ヨコ約13cm×長さ約130cmの木製トランク付き。革張りだった痕跡（鋸打ちの跡）もあり、中身が入った状態では片手持ちが困難な重さのケースである。 前出の中学校旗同様、金モール縁の紫紺地に金糸で「刈高」の校章のみ入っており、風格のある重厚な作りであることから刈高初代の校旗かと推測される。そうすると現在の「刈高」校旗は高校2代目ということになる。 なお本ケースには掲揚棒と三脚のほか、旗手が捧げ持つための革製保持ベルトも残されている。		
0803	年不明	「愛知縣立刈谷高等學校」校旗
タテ約15cm×ヨコ約13cm×長さ約130cmの黒色ケース付き。 金モールの縁取りなどがなく比較的簡便な校旗に見える。ただし掲揚棒と三脚付きである。退色等は軽度であるが、「縣」「高」など旧字体の縫い取りがある。この旗がいつどのように使われたものか判然としない。		
閑話休題 創立100年を迎える今回の調査では、本校開闢にあたる「愛知縣立第八中學校」時代の校旗は見つからなかった。3年という短期間で改称された「八中」の校旗がはたしてどのような運命をたどったかをたどるのは少々困難かもしれない。なお、本展示ケースには上記とは別に、素地を失い金糸の「刈中」校章のみになった校旗の一部が残されている。「刈中」の校章と同大、同じ意匠であるところからいわゆる「八中」のものでないことは確かだがどのような由来を持つものかこれまた不明である。古い記憶を皆の遺産としてとどめ置くことは容易でない。時に記憶を整理し記録しておく備え。広く頒布して私の忘却に堪える備え。本収蔵目録編集がその備えにかなう取り組みであるよう願う。		

保管庫名：金属ロッカー①

主な収蔵品：旧制刈谷学校1回生から刈谷高校38回生までの卒業記念写真帖・卒業アルバム

索引	年	資料名	大きさ
刈谷中学校時代の卒業アルバム			
2001	大正13年	刈中1回生（大正13年3月卒）『第壹回卒業記念寫眞帖』	A4判大判・ヨコ長・個人写真付き
2002	大正14年	刈中2回生（大正14年3月卒）『第貳回卒業記念帖』	A5判小判・ヨコ長・個人写真なし
巻末折込に刈中略図が添付されている。この時代の刈中は「敷地 壹萬五千坪、内 運動場六千八百四十四坪」とある。なお、この年から2年間（刈中2回生・3回生）は卒業生名簿のみで個人写真は省かれている。刈中4回生以降はグループ写真（記名付き）、個人写真等で個人が識別できるように体裁が戻されている。			
2003	大正15年	刈中3回生（大正15年3月卒）『第三回卒業記念帖』	A5判小判・ヨコ長・個人写真なし
2004	昭和2年	刈中4回生（昭和2年3月卒）『第四回卒業記念寫眞帖』	B5判中判・ヨコ長・個人写真付き
2005	昭和3年	刈中5回生（昭和3年3月卒）『第五回卒業記念寫眞帖』	A4判大判・ヨコ長・個人写真付き
2006	昭和4年	刈中6回生（昭和4年3月卒）『第六回卒業記念寫眞帖』	A4判大判・ヨコ長・個人写真付き
2007	昭和5年	刈中7回生（昭和5年3月卒）『第七回卒業記念寫眞帖』	A4判大判・ヨコ長・個人写真付き
—	昭和6年	刈中8回生（昭和6年3月卒）卒業記念帖 ※所在不明	
2008	昭和7年	刈中9回生（昭和7年3月卒）『第九回卒業記念帖 2592』	A4判大判・ヨコ長・個人写真付き
卒業記念帖表紙に初めて年式が刻印されるが、「2592」と「皇紀」表記であるところが満州事変翌年の時代の反映と見ることもできる。その一方で表紙中扉には「GRADUATION COMMEMORATION」（卒業祝賀）と英語表記が初めて用いられている。これはなんらかのバランス感覚なのだろうか。			
2009	昭和8年	刈中10回生（昭和8年3月卒）『第十回卒業記念帖 2593』	A4判大判・ヨコ長・個人写真付き
卒業記念帖表紙の刻印は「2593」。前年に続き「皇紀」表記が継承される。中扉は普通の日本語表記に戻る。			
2010	昭和9年	刈中11回生（昭和9年3月卒）『第11回卒業 Album 1934』	A4判大判・ヨコ長・個人写真付き
この年は前々年からの皇紀表記をやめ、表紙刻印に初めて「1934」と「西暦表記」が用いられたほか、英語で「Soub (v ?) enir Album」（贈り物のアルバム）という表題が刻印されている。この数年の意匠には単なる好みを越えた差異を感じる。どのような背景があったのだろうか。			
2011	昭和10年	刈中12回生（昭和10年3月卒）『第12回卒業記念帖 2595』	B5判中判・タテ長・個人写真付き
記念帖表紙の刻印に「2595」と「皇紀」表記が復活。サイズはA4判からB5判へやや小型化するが、表紙は藍色の布製となり、これまでのヨコ長から初めてタテ型に変更されるなど、外見的にも前年度のアルバムとの相違点が際立っている。この体裁はこの後5年間踏襲されていく。			
2012	昭和11年	刈中13回生（昭和11年3月卒）『第13回卒業記念帖 2596』	B5判中判・タテ長・個人写真付き
表紙の刻印は「皇紀」表記が継承され、昭和15年「皇紀2600年」の祝典年まで続いている。			

索引	年	資料名	大きさ
2013	昭和12年	刈中14回生(昭和12年3月卒)『第14回卒業記念帖 2597』	B5判中判・タテ長・個人写真付き
2014	昭和13年	刈中15回生(昭和13年3月卒)『第15回卒業記念帖 2598』	B5判中判・タテ長・個人写真付き
2015	昭和14年	刈中16回生(昭和14年3月卒)『第16回卒業記念帖 2599』	B5判中判・タテ長・個人写真付き
2016	昭和15年	刈中17回生(昭和15年3月卒)『第17回卒業記念帖 2600』	B5判中判・タテ長・個人写真付き
内容的には過去5年間と変わらないものの表紙がそれまでの布製から同色の厚紙となり、簡素な作りとなっている。「皇紀2600年」祝賀ムード洋溢の印象がある昭和15年であるが、そのような世相とは裏腹の経済事情があったのだろうか。			
—	昭和16～20年	昭和16年3月卒から昭和20年3月卒までの刈中卒業記念帖 ※所在不明	
刈谷高校の卒業アルバム			
2101	昭和24年	刈高1回生(昭和24年3月卒)『第1回卒業アルバム1949』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
新制高校として初の卒業記念アルバム。サイズは戦前のB5判からA4判に戻り、表紙に西暦年の刻印。このデザインは現在まで基本的に変わっていない。特筆すべきはこのアルバムが旧制刈谷中学校生として入学した生徒の卒業アルバムだということである。後書きを見ると編集など卒業生有志が中心となって作製したもので、校長はじめ職員の協力に感謝する旨の記述がある。時代に翻弄された学校変革期の一面を示す証言である。			
—	昭和25年	刈高2回生(昭和25年3月卒)卒業アルバム ※所在不明	
2回生も学制変革の波を受けた時代の卒業である。誰かによってアルバムが作成され、存在したのかも定かでない。2回生もまた太平洋戦争中の卒業生同様、名簿による卒業記録のみとなっている。この目録作成を始めた頃に、2回生で長く同窓会役員を務め、70周年記念事業にも尽力した故栗屋誠陽氏と同席する機会があった。この当時のことをもっと聞いておくのだったと悔やまれる。			
2102	昭和26年	刈高3回生(昭和26年3月卒)『第3回卒業アルバム1951』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2103	昭和27年	刈高4回生(昭和27年3月卒)『第4回卒業アルバム1952』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2104	昭和28年	刈高5回生(昭和28年3月卒)『第5回卒業アルバム1953』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2105	昭和29年	刈高6回生(昭和29年3月卒)『第6回卒業アルバム1954』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2106	昭和30年	刈高7回生(昭和30年3月卒)『第7回卒業アルバム1955』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2107	昭和31年	刈高8回生(昭和31年3月卒)『第8回卒業アルバム1956』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2108	昭和32年	刈高9回生(昭和32年3月卒)『第9回卒業アルバム1957』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2109	昭和33年	刈高10回生(昭和33年3月卒)『第10回卒業アルバム1958』	A4判大判・タテ長・個人写真付き

索引	年	資料名	大きさ
2110	昭和34年	刈高11回生(昭和34年3月卒)『第11回卒業アルバム1959』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2111	昭和35年	刈高12回生(昭和35年3月卒)『第12回卒業アルバム1960』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2112	昭和36年	刈高13回生(昭和36年3月卒)『第13回卒業アルバム1961』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2113	昭和37年	刈高14回生(昭和37年3月卒)『第14回卒業アルバム1962』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2114	昭和38年	刈高15回生(昭和38年3月卒)『第15回卒業アルバム1963』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2115	昭和39年	刈高16回生(昭和39年3月卒)『第16回卒業アルバム1964』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2116	昭和40年	刈高17回生(昭和40年3月卒)『第17回卒業アルバム1965』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2117	昭和41年	刈高18回生(昭和41年3月卒)『第18回卒業アルバム1966』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2118	昭和42年	刈高19回生(昭和42年3月卒)『第19回卒業アルバム1967』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2119	昭和43年	刈高20回生(昭和43年3月卒)『第20回卒業アルバム1968』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2120	昭和44年	刈高21回生(昭和44年3月卒)『第21回卒業アルバム1969』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2121	昭和45年	刈高22回生(昭和45年3月卒)『第22回卒業アルバム1970』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2122	昭和46年	刈高23回生(昭和46年3月卒)『第23回卒業アルバム1971』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2123	昭和47年	刈高24回生(昭和47年3月卒)『第24回卒業アルバム1972』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2124	昭和48年	刈高25回生(昭和48年3月卒)『第25回卒業アルバム1973』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2125	昭和49年	刈高26回生(昭和49年3月卒)『第26回卒業アルバム1974』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2126	昭和50年	刈高27回生(昭和50年3月卒)『第27回卒業アルバム1975』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2127	昭和51年	刈高28回生(昭和51年3月卒)『第28回卒業アルバム1976』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2128	昭和52年	刈高29回生(昭和52年3月卒)『第29回卒業アルバム1977』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2129	昭和53年	刈高30回生(昭和53年3月卒)『第30回卒業アルバム1978』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2130	昭和54年	刈高31回生(昭和54年3月卒)『第31回卒業アルバム1979』	A4判大判・タテ長・個人写真付き

索引	年	資料名	大きさ
2131	昭和55年	刈高32回生(昭和55年3月卒)『第32回卒業アルバム1980』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2132	昭和56年	刈高33回生(昭和56年3月卒)『第33回卒業アルバム1981』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2133	昭和57年	刈高34回生(昭和57年3月卒)『第34回卒業アルバム1982』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2134	昭和58年	刈高35回生(昭和58年3月卒)『第35回卒業アルバム1983』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2135	昭和59年	刈高36回生(昭和59年3月卒)『第36回卒業アルバム1984』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
この年以降、現在までの卒業アルバムはすべて箱入りの装丁で作成、保管されている。			
2136	昭和60年	刈高37回生(昭和60年3月卒)『第37回卒業アルバム1985』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2137	昭和61年	刈高38回生(昭和61年3月卒)『第38回卒業アルバム1986』	A4判大判・タテ長・個人写真付き

保管庫名：金属ロッカー②

主な収蔵品：刈谷高校39回生から現在(～70回生)までの卒業アルバム

索引	年	資料名	大きさ
刈谷高校の卒業アルバム(金属ロッカー①の続き)			
2138	昭和62年	刈高39回生(昭和62年3月卒)『第39回卒業アルバム1987』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2139	昭和63年	刈高40回生(昭和63年3月卒)『第40回卒業アルバム1988』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2140	平成元年	刈高41回生(平成元年3月卒)『第41回卒業アルバム1989』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2141	平成2年	刈高42回生(平成2年3月卒)『第42回卒業アルバム1990』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2142	平成3年	刈高43回生(平成3年3月卒)『第43回卒業アルバム1991』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2143	平成4年	刈高44回生(平成4年3月卒)『第44回卒業アルバム1992』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2144	平成5年	刈高45回生(平成5年3月卒)『第45回卒業アルバム1993』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2145	平成6年	刈高46回生(平成6年3月卒)『第46回卒業アルバム1994』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2146	平成7年	刈高47回生(平成7年3月卒)『第47回卒業アルバム1995』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2147	平成8年	刈高48回生(平成8年3月卒)『第48回卒業アルバム1996』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2148	平成9年	刈高49回生(平成9年3月卒)『第49回卒業アルバム1997』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2149	平成10年	刈高50回生(平成10年3月卒)『第50回卒業アルバム1998』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2150	平成11年	刈高51回生(平成11年3月卒)『第51回卒業アルバム1999』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2151	平成12年	刈高52回生(平成12年3月卒)『第52回卒業アルバム2000』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2152	平成13年	刈高53回生(平成13年3月卒)『第53回卒業アルバム2001』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2153	平成14年	刈高54回生(平成14年3月卒)『第54回卒業アルバム2002』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2154	平成15年	刈高55回生(平成15年3月卒)『第55回卒業アルバム2003』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2155	平成16年	刈高56回生(平成16年3月卒)『第56回卒業アルバム2004』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2156	平成17年	刈高57回生(平成17年3月卒)『第57回卒業アルバム2005』	A4判大判・タテ長・個人写真付き

索引	年	資料名	大きさ
2157	平成18年	刈高58回生(平成18年3月卒)『第58回卒業アルバム2006』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2158	平成19年	刈高59回生(平成19年3月卒)『第59回卒業アルバム2007』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2159	平成20年	刈高60回生(平成20年3月卒)『第60回卒業アルバム2008』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2160	平成21年	刈高61回生(平成21年3月卒)『第61回卒業アルバム2009』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2161	平成22年	刈高62回生(平成22年3月卒)『第62回卒業アルバム2010』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2162	平成23年	刈高63回生(平成23年3月卒)『第63回卒業アルバム2011』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2163	平成24年	刈高64回生(平成24年3月卒)『第64回卒業アルバム2012』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2164	平成25年	刈高65回生(平成25年3月卒)『第65回卒業アルバム2013』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2165	平成26年	刈高66回生(平成26年3月卒)『第66回卒業アルバム2014』	A4判大判・タテ長・個人写真付き
2166	平成27年	刈高67回生(平成27年3月卒)『第67回卒業アルバム2015』	A4判大判・タテ長・個人写真付き

保管庫名：ショーケース外の展示品

主な収蔵品：卒業生の美術作品
各種表彰状
昭和時代の学校備品など

索引	年	資料名
昭和時代の学校備品		
0901	年不明	初代校長 羽生隆先生の胸像(ブロンズ製 高さ約40cm)
高さ約120cmの立台付き。		
0902	昭和43年寄贈	加藤知彦作 男子生徒立像(石膏樹脂製 高さ約165cm)
0903	昭和43年寄贈	加藤知彦作 女子生徒立像(石膏樹脂製 高さ約155cm)
男女2体の像は創立50周年を祝して寄贈された。裸体の人物像は当時の生徒たちにとって衝撃的だったという。女性像の方は昭和30年、定時制夜間2年に在学中の加藤知彦氏が制作したもので、「つばみ」と題したその作品は第11回日展に出品し、初入選を果たした。		
0904	年不明	水路図「昭和22年 日本水路部測量 『広島湾』 63,100分の1」(タテ約90cm×ヨコ約135cm)
平成の校舎建替の際、旧校舎の社会科準備室から出てきた大判の広島湾水路図。四隅に相当期間掲示されていたと思われる日焼け跡があるが、広島湾の水深図がどのような目的で使われていたか未詳。		
0905	昭和47年以前	旧木造平屋建て校舎の時代に使われていたと思われる全木製生徒机
0906	昭和47年以前	旧木造平屋建て校舎の時代に使われていたと思われる全木製生徒椅子
今の規格からするとどちらも小さい作りである。しかし頑丈でひどく重い。特に机の移動など今の女子生徒の手に余るほどである。今回創立100周年を機に学校事務倉庫等の整理ができた。以下に挙げる昭和の学校備品はその結果、順次発見されたものである。		
0907	昭和23年	当時まで保管されていた非常用の提灯「県立刈谷高等学校 第一号」
0908	昭和23年	当時まで保管されていた非常用の提灯「県立刈谷高等学校 第二号」
一号二号とも同大である。伸ばした時の高さ60cm余(二尺?)×直径約40cm。 昭和29年の備品表示票が添付された下記の提灯箱の中に収められていたので、昭和23年の刈高発足当時に作られた大提灯と思われる。竹ヒゴの骨に和紙張りの作り。紙は変色がすすんでいるはずだが、柿渋塗り(和傘と同じ)が施されているようで、伸び縮みさせて不安を感じさせないくらい今でもしっかりしている。茶色がかった提灯の正面には「県立刈谷高等学校」、裏面に「第〇号」と墨で大書されている。		
0909	昭和7年	「非常用 提灯箱」(上蓋着脱式の縦型木箱 タテ約50cm×ヨコ約60cm×幅約23cm)
上記の提灯ふたつがたたんで収められていた木箱である。昭和29年の備品票が貼られているが、木箱の正面に「非常用 提灯箱 愛知縣刈谷中學校」、左側面には「昭和七年」と墨書されているのがかろうじて判別できる。とすれば旧制中学校時代の話で、箱そのものは太平洋戦争をくぐり抜けてきたことになる。箱の中には特太ローソク3本、中太ローソク3本(いずれも長さは約22cm)も残されていた。(下線部は目録作成者補足)		
0910	昭和13年	油絵(タテ約80cm×ヨコ約120cm)
額縁のフレームに「昭和十三年、六、二〇 9回卒(刈谷中學校) 和田裕介氏 寄贈」の金属プレートあり。画題は記されていないが、狭い室内でボール遊びに興じる若者7人が描かれている。一部の人物はユニフォーム姿で、おそらく部室で戯れる蹴球部員を描いたものと思われる。時は日中戦争下、太平洋戦争まであと3年という情勢である。経年と保存状態もあってか画面は暗いトーンである。(下線部は目録作成者補足)		

索引	年	資料名
0911～14	昭和42年頃	写真パネル「昭和42年7月 2年生修学旅行（白樺湖・車山登山など）」のモノクロパネル（タテ約55cm×ヨコ約80cm）4点 パネル裏面に各々の撮影データが記録されている。撮影者は「足立教諭」と記録されている。昭和42年～昭和49年の間、刈高に在職した足立先生の修学旅行引率時のスナップ作品である。
0915～29	昭和42年	表彰額 「昭和42年度全国高校総体 サッカー競技 二位」などの額入り賞状 15点 学校事務の倉庫から今回ほぼ40年ぶりに発見された。数点ずつひもで無造作に束ねてあったが解いてみるとその賞状の多くがサッカー全国大会の上位入賞（2位または3位）の成績である。額縁が劣化して顕彰にたえられない状態になったためにこのような保管になったと思われるが、それにしても全国大会の賞状である。「入賞なら特段の事件ではなかった」学校の、またその時代にしか起こりえない驚くべき扱いであろう。（下線部は目録作成者補足）
0930	昭和33年	上棟式奉納札（木製の「熨斗～のし」型札 高さ約120cm×上幅約24cm・下幅約16cm 板厚約1.8cm） 「昭和三十三年 奉上棟 愛知県立刈谷高等学校体育館 建築主 愛知県知事 桑原幹根 十二月十八日 施工者 六合建設株式会社」と墨書されている。平成の体育館耐震工事の際、屋根裏に祀られているのを発見された。
平成時代の学校備品		
0931	平成25年	裸婦座像（高さ約35cm） 刈高14回生トロック祥子氏の寄贈。備前焼の工房を持つという氏の風合いある作品である。

付：創立100周年に向けて記念館に寄贈された資料一覧（寄贈順に掲載）

平成29年11月現在

No.	年	資料名	寄贈者	目録掲載頁
01	昭和53年	パネル 第50回選抜高校野球大会1回戦 対南陽工業（山口県）「春のセンバツ 刈谷 追撃のホームイン」	前田英伸（刈高32回生）	3
02	昭和53年	甲子園ベナント 出場記念刈高ベナント5枚（紅・赤・朱・橙・緑色の5色）	前田英伸（刈高32回生）	3
03	平成28年	資料『かりや 市民だより』平成28年 1/1号記事「サッカーのまち 刈谷の歴史に迫る」	刈谷市役所広報室	4
史料写真 昭和30年 第10回国民体育大会サッカー競技優勝時の歓迎風景スナップ2枚（写し）も合わせて寄贈。				
04	昭和30年	国体連覇を果たし凱旋した選手たちのスナップ写真Ⅰ（写し）	刈谷市役所広報室	8
05	昭和30年	選手たちを出迎えようと刈谷駅に集まった生徒や町の人々のスナップ写真Ⅱ（写し）	刈谷市役所広報室	8
06	大正9年	図面集 大正九年「縣有財産臺帳附属圖面」愛知縣刈谷中學校	刈谷高校事務室	5
07	昭和2年	図面集 昭和二年愛知縣内務部発の「 ^{ごうがい} 庶號外」と図面綴	刈谷高校事務室	5
08	大正11年頃	図面「愛知縣刈谷中學校」落成当時の学校平面図（タテ×ヨコ約1.3メートルの製図）	刈谷高校事務室	5
09	昭和37年10月1日	図面集 プール新設工事関係図面、書類等綴	刈谷高校事務室	5
10	昭和37年8月22日	史料写真 プール並びにクラブハウス竣工式を前にしたプール全景写真 3枚	鈴喜写真館	5
11	平成28年	写真『福利あいち』巻頭写真（平成28年1月号）表題「これまで100年 未来に向かって」	愛知県教育委員会史料編纂室	7
12	昭和61年	著書『松本奎堂先生覚之書』鈴木定雄著 六法出版	鈴木定雄（刈中17回生）	26
13	平成6年	著書『島原の乱と三河武士』鈴木定雄著 六法出版	鈴木定雄（刈中17回生）	26
14	平成27年	著書『歌集 游涉（いうせふ＝歩き回る）』鈴木竹志著 六花書林	鈴木竹志（刈高21回生）	34
15	平成11年	著書『風呂で読む与謝野晶子』松平盟子著 世界思想社	松平盟子（刈高25回生）	34
16	平成9年	編著『刈谷藩主の墨跡』刈谷頌和会（旧刈谷士族会）編	刈谷頌和会会長 三ツ松悟	35
17	大正13年	卒業アルバム 刈中1回生（大正13年卒）『第壹回卒業記念寫眞帖』	鈴木隆二（刈中1回生）	37
18	平成28年	平成28年総体全国大会サッカー競技（広島）応援キャップ「KARIYA AICHI 2016 Inter-High」	刈谷高校同窓会	4
19	平成28年	平成28年総体全国大会サッカー競技（広島）刈高必勝タオル「2016 質實剛健 KARIYA」	刈谷高校同窓会	4

No.	年	資料名	寄贈者	目録掲載頁
20	平成28年	平成28年総体全国大会サッカー競技(広島)刈高必勝うちわ「刈谷高校サッカー部 2016 情熱疾走 中国国体 in HIROSHIMA」	刈谷高校同窓会	4
21	平成4年	スライド イートン校校長夫妻を本校に招待した時のスナップ スライドケース入り 23枚	刈谷高校	16
22	平成4年	カセットテープ 歓迎式典にてイートン校校長のスピーチを取めたカセット	刈谷高校	16
23	平成4年	収支決算書 イートン校校長夫妻本校招待時の決算書類綴	刈谷高校	16
24	平成4年	クリスマスカード イートン校校長から本校校長宛てのお祝いカード	刈谷高校	16
25	平成5年	礼状 イートン校校長招待のレセプション参加者 岩瀬様からの書簡	刈谷高校	16
26	年不明	水路図「昭和22年 日本水路部測量 『広島湾』 63,100分の1」(タテ約90cm×ヨコ約135cm)	刈谷高校	43
四隅に一定期間掲示されていた跡あり。どのような目的で使われたか未詳。				
27	昭和43年	飾り皿「愛知県立刈谷高等学校創立五拾周年記念」	刈谷高校	14
小林貢(刈高3回 日展入選者)デザインとある。				
28	昭和23年	校旗 愛知県立刈谷高等学校初代と思われる校旗(タテ約50cm×ヨコ約13cm×長さ約130cmの木製トランク入り 掲揚棒・保持ベルト付)	刈谷高校事務室	36
29	年不明	校旗「愛知県立刈谷高等学校」の文字入り校旗(タテ約15cm×ヨコ約13cm×長さ約130cmの黒色ケース入り 掲揚棒付)	刈谷高校事務室	36
30	昭和47年頃	旧木造校舎時代(昭和47年以前)のものと思われる全木製生徒机	刈谷高校事務室	43
31	昭和47年頃	旧木造校舎時代(昭和47年以前)のものと思われる全木製生徒椅子	刈谷高校事務室	43
32	昭和7年	製提灯保管箱「非常用 提灯箱」(上蓋着脱式の縦型木箱 タテ約50cm×ヨコ約60cm×幅約23cm)	刈谷高校事務室	43
33	昭和29年	提灯 当時まで保管されていた非常用の提灯「県立刈谷高等学校 第一号」	刈谷高校事務室	43
34	昭和29年	提灯 当時まで保管されていた非常用の提灯「県立刈谷高等学校 第二号」	刈谷高校事務室	43
保管用木箱に墨書されている昭和7年は満州事変の翌年。災害時や非常時の停電に備えて用意されたものであろうか。提灯は伸ばすとかなり大型なので持ち歩く用途ではないと思われる。				

No.	年	資料名	寄贈者	目録掲載頁
35	昭和13年	油絵(タテ約80cm×ヨコ約120cm)	刈谷高校	43
額縁のフレームに「昭和十三年、六、二〇 9回卒(刈谷中学校) 和田裕介氏 寄贈」の金属プレートあり。画題は記されていないが、狭い室内でボール遊びに興じる若者7人が描かれている。一部の人物にユニフォーム姿があり、おそらくは部室で戯れる蹴球部員を描いたものと思われる。時は日中戦争下、太平洋戦争まであと3年という情勢である。経年と保存状態もあってか画面は暗いトーンである。(下線部は目録作成者補足)				
36 ～ 39	昭和42年頃	写真パネル「昭和42年7月 2年生修学旅行(白樺湖・車山登山など)」のモノクロパネル(タテ約55cm×ヨコ約80cm) 4点	足立 駿(刈高恩師)	44
パネル裏面に各々の撮影データが記録されている。撮影者は「足立教諭」と記録されている。昭和42～昭和49年の間、刈高に在職した足立先生の修学旅行引率時の作品である。				
40 ～ 54	昭和42年	表彰額「昭和42年度全国高校総体 サッカー競技 二位」などの額入り賞状15点	刈谷高校事務室	44
破損状態の額縁を数点ずつひもで束ねてあったものである。倉庫に眠っていたのを学校事務の方が見つけて記念館に移すことができた。解いて見るとその多くは全国大会上位入賞(2位や3位)の賞状の入ったもので、額縁の劣化により掲示にたえられなくなったための保管と思われるが、それにしてもこれら15枚もの賞状の扱いは、全国大会ですら「入賞なら特段の事件とされなかった」時代にしか起こりえないもったいない扱いであろう。(下線部は目録作成者補足)				
55	昭和33年	上棟式奉納札(木製の「熨斗～のし」型札 高さ約120cm×上幅約24cm・下幅約16cm 板厚約1.8cm)	刈谷高校	44
「昭和三十三年 奉上棟 愛知県立刈谷高等学校体育館 建築主 愛知県知事 桑原幹根 十二月十八日 施工者 六合建設株式会社」と墨書されている。体育館倉庫から発見された。				
平成24年度寄贈本 ※No.56～68は同窓会へ寄贈され別途保管されていた著作13冊。平成29年3月31日記念館へ移管				
56	平成23年	著書『孤独なる歌人たち』鈴木竹志著 六花書林	鈴木竹志(刈高21回生)	34
57	平成23年	著書『人間形成における「如来蔵思想」の教育的道徳的意義』岩瀬真寿美著 国書刊行会	岩瀬真寿美(刈高53回生)	34
平成26年度寄贈本				
58	平成25年	著書『水草の世界—生態と東海地方の分布・変貌の記録』浜島繁隆著 シンプルブックス	浜島繁隆(刈高4回生)	31
59	平成25年	著書『転倒予防—転ばぬ先の杖と知恵』武藤芳照著 岩波書店	武藤芳照(刈高21回生)	34
平成27年度寄贈本				
60	平成26年	訳書『ロシアの失墜—届かなかった一知識人の声』E・J・ディロン著 成田富夫訳 成文社	成田富夫(刈高7回生)	31
平成28年度寄贈本				
61	平成23年	著書『街角の統計学 —楽しい確率論の展開—』広江守俊著 岩波ブックセンター	広江守俊(刈高17回生)	33
62	平成27年	著書『ふるさと大府 心に描いた風景』広江守俊著 一粒書房	広江守俊(刈高17回生)	33
63	平成27年	著書『武道のスポーツ医学』武藤芳照著 ベースボール・マガジン社	武藤芳照(刈高21回生)	34

No.	年	資料名	寄贈者	目録 掲載頁
平成29年度寄贈本				
64	平成27年	著書『江戸川柳 女の一生』 小野眞孝著 文芸社	小野眞孝 (刈中23回生)	29
65	平成28年	著書『生徒らと歩んだ私の足あと』 三上 裕著 カブス出版	三上 裕 (刈高17回生)	33
66	平成24年	著書『禅を正しく、わかりやすく』 中野紀和男著 パレードブックス	中野紀和男 (刈高11回生)	32
67	平成25年	著書『続 禅を正しく、わかりやすく』 中野紀和男著 パレードブックス	中野紀和男 (刈高11回生)	32
68	平成26年	著書『禅を生活に活かす』 中野紀和男著 パレードブックス	中野紀和男 (刈高11回生)	32
69	昭和41年	大会要項 第21回国民体育大会サッカー競技(大分)	曾田悦正 (刈高20回生)	4
70	昭和42年	大会要項 総体全国大会サッカー競技(福井)	曾田悦正 (刈高20回生)	4
71	昭和42年	刈谷市優秀選手表彰式要項 総体全国大会サッカー競技(準優勝)	曾田悦正 (刈高20回生)	4
72	昭和42年	大会要項 第22回国民体育大会サッカー競技(埼玉)	曾田悦正 (刈高20回生)	4
73	昭和42年	大会要項 第45回全国高等学校サッカー選手権大会(西宮球技場)	曾田悦正 (刈高20回生)	4
74	平成26年	著書『大地への感謝状 ～自然は宝もの 千に一つの無駄もない』 高木利誌著 明窓出版	高木利治 (刈高3回生)	31
75	平成28年	著書『宇宙から電気を無尽蔵にいただくとおきの方法 ～水晶・鉱石に秘められた無限の力』 高木利誌著 明窓出版	高木利治 (刈高3回生)	31
76	平成29年	編著『人工知能学大辞典 人工知能学会編』 間瀬健二編集委員 共立出版	間瀬健二 (刈高27回生)	34
77	平成23年	著書『街角の統計学 ー楽しい確率論の展開ー』 広江守俊著 岩波ブックセンター	広江守俊 (刈高17回生)	33
平成28年度にも同書の寄贈があった。				
78	昭和40年代	アルバム 昭和の校舎風景	角谷一夫 (刈高23回生)	6
木造平屋建て教室から鉄筋コンクリート教室への移行期の姿をとらえた貴重なアルバム。				
79	平成28年	著書『トルコ旅行記』 杉浦雅子著 一粒書房	入谷雅子 (刈高25回生)	34
80	平成28年	著書『トルコ旅行記』(中国語版) 杉浦雅子著 一粒書房	入谷雅子 (刈高25回生)	34
81	平成16年	著書『共に天を戴かず』 相木鍾三著 日本図書刊行会	相木鍾三 (刈高14回生)	32
82	平成17年	著書『洛陽の紙価』 相木鍾三著 文芸社	相木鍾三 (刈高14回生)	32
83	平成27年	著書『王朝晦冥なり』 相木鍾三著 幻冬社	相木鍾三 (刈高14回生)	32
84	平成29年	訳書『トルストイ ～新しい肖像(E・J・ディロン著)』 成田富夫(岩月富夫)訳 成文社	岩月富夫 (刈高7回生)	32